

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 29 年度 第 1 回理事会

開催日時 平成 29 年 5 月 2 日（火）
 15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
 （東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 29 年度第 1 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 学協会長会議幹事会規則承認の件
- 第 3 号議案 総会議事および資料の承認
- 第 4 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1. 川幡代表理事職務報告
- 2. 田近理事(広報担当)職務報告
- 3. 中村正人理事(顕彰担当)職務報告
- 4. 古村理事(総務担当)職務報告
- 5. 北理事(財務担当)職務報告
- 6. 倉本理事(ジャーナル担当)職務報告
- 7. 浜野理事(大会運営担当)職務報告
- 8. 大会準備 TF 報告(末広 TF 主査)
- 9. グローバル委員会活動報告(木村理事)
- 10. 教育検討委員会活動報告
- 11. その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

	平成 29 年度第 7 回理事会議事録	P. 1-7
--	-------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件	P.8-15
第 2 号議案 学協会長会議幹事会規則承認の件	
第 3 号議案 総会議事および資料の承認	別添
第 4 号議案 その他	

報告事項

1.川幡代表理事職務報告	P.16-24
2.田近理事(広報担当)職務報告	
3.中村正人理事(顕彰担当)職務報告	
4.古村理事(総務担当)職務報告	P.25-31
5.北理事(財務担当)職務報告	別添
6.倉本理事(ジャーナル担当)職務報告	P.32-35
7.浜野理事(大会運営担当)職務報告	P.36-52
8.大会準備 TF 報告(末広 TF 主査)	P.53
9.グローバル委員会活動報告(木村理事)	
10.教育検討委員会活動報告(西理事)	P.54-56
11.その他	

その他の資料

	規則	別添
--	--------------	----

1. 開催日時 平成 29 年 3 月 23 日(木)

15 時 00 分から 18 時 30 分

2. 開催場所 東京大学理学部1号館 331 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名

出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)

出席監事 2 名

オブザーバー 8 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 津田 敏隆

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 井出 哲

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 北 和之

理事 木村 学

理事 倉本 圭

理事 瀧上 豊

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 日比谷 紀之

監事 鈴木 善和

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションボードメンバー 加藤 雄人

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明

地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子

固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
学協会長会議 議長 坂本 尚義
大会準備 TF 末廣 潔

15 時 00 分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第 7 回理事会を開始した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する北和之理事、倉本圭理事、加藤雄人宇宙惑星科学セクションボードメンバーが審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】

第 6 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件

新規ジャーナル編集委員会委員を資料の通り承認した。

第 3 号議案 2017 年度連合フェロー認定について

中村正人顕彰担当理事より、1 月 30 日に開催されたフェロー審査委員会にて選出されたフェロー受賞候補者の報告があり、資料の通り承認した。

第 4 号議案 第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞者について

中村正人顕彰担当理事より、第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の報告があり、資料の通り承認した。

第 5 号議案 学生旅費支援について

学生旅費補助の国内旅費支援については 69 件の応募があった。顕彰委員会にて基準に基づき審議した結果、38 名に支援することとなったと報告があり、了承された。

1 件 5 万円以内で当初予算額として資金より 150 万円を支出することとなっているので、予算額より最大では 40 万円程度超過することが見込まれる。これに関して、北和之財務委員長より、予算の厳しいおりから、支出額はできるだけ予算額を超過しないようにしてほしいとのコメントがあった。また浜野洋三大会運営委員長より、この学生旅費補助については、2016 年より試行していて、この 2 年間の学生の応募状況をみて、今後の予算額を決定することになっている。2017 年については 150 万円を 2016 年に設定した資金から支出されており本予算からの支出はない。また超過分については、若手の援助等を使途として集められた寄付金が 200 万円程度あるので、そこから支出することを考える、とのコメントがあった。

外国旅費補助については JpGU から 250 万円、AGU から 17K \$ を原資として、AGU 側で審査決

定されているが、結果として 42 名が採択されたとの報告があった。

また、来年度以降の旅費支援の使途を交通費のみに限るか、交通費と宿泊費を支給するか等について議論があったが、外国旅費の取り扱いや、旅費援助全体の予算額などを含めて、2018 年に向けて、今後検討することとした。

第 6 号議案 平成 29 年度事業計画書・予算書について

古村孝志総務委員長より、平成 29 年度事業計画案について説明があり、審議が行われた。若干の字句修正については、総務委員会に一任することで、事業計画として承認された。平成 29 年度収支予算書について、北和之財務委員長から予算案の経常収益及び経常費用について詳細な説明があり、特に予算の大きな割合を占める 2017 年大会予算案の大枠について、浜野洋三大会運営委員長より、参加費等の収入見込み及び大会会場費等の必要経費見積もりの根拠が説明された後に、審議が行われた。平成 29 年度年度収支予算書は、2017 年の AGU との共同開催大会に投資が必要とため大幅赤字となっているが、平成 28 年度決算予想が大幅黒字となっており(資料参考)、2 年間でほぼ収支相償となる旨が報告され了承・承認された。

第 7 号議案 2020 年連合大会会場について

2020 年連合大会の開催会場については、オリンピック開催年の為、例年大会会場としている幕張メッセ会場の使用ができなくなる可能性を考慮し、現在横浜市により建設中で、2020 年 4 月から使用が開始され、パシフィコ横浜が管理／運営することになっている会議施設を使用する計画で、今後交渉を進めて行くことが了承された。会場の使用募集開始は 2017 年 4 月 15 日なので、それ以降に具体化する予定である。なお 2020 年の連合大会開催期間は横浜会場においても、例年と同様に 5 月第 3 週での開催に向けて交渉している。本議案は、今回は方向性を議論したが、継続審議となり今後とも理事会で議論することとなった。

第 8 号議案 「キーノートスピーチ講演者への謝金等について」

キーノートスピーチ講演者への謝金等について審議され、決定された。

8. 報告事項

(1) 川幡穂高代表理事職務報告

学協会長会議の幹事会規則(案)への学協会(日本陸水学会、リモートセンシング学会、日本地質学会)からの質問への回答案について川幡穂高会長より説明があり、議論された結果、理事会に提出した文案が認められた。

また、坂本尚義学協会長会議議長より、幹事会の規則が、平成 29 年度第 1 回理事会で承認されれば、その後引き続き開催される次回の学協会長会議で幹事会メンバーを選出する予定である旨、報告があった。

(2) 田近英一理事(広報普及担当)職務報告

現在、連合のホームページが障害中である。原因が複雑なため復旧見込みは未定であるが速やかに対処したい、との報告があった。

ハイライト論文については、2017 年から広報委員会で担当し、プレス向けの論文などを個人から

提案を受け付け、その後で、関連するセクションに選出を依頼することとした、との説明があった。
なお昨年と同様に、JGLの本年2号は、日本語の大会プログラムを掲載する、との報告があった。

(3) 中村正人理事(顕彰担当)職務報告

2017年度連合フェロー認定について、および第2回地球惑星科学振興西田賞受賞者について説明があった後に、フェローの推薦や審査方法について、フェロー審査委員会からの理事会への質問や要望に関しての報告について議論された。

一人が複数の候補者の主たる推薦者になれるかどうかについては、議論の候補者を推薦することは排除しないこととした。また、連合の会長や副会長等がフェローの推薦者、サポートレター提供者になることについて議論された結果、セクションプレジデントが推薦人となることは可能であるが、連合の執行役員である会長、副会長は推薦人になれない方が良いということで、合意された。また、一人の候補者について複数の推薦があった場合について議論され、複数の推薦を受け付けるが、審査に入る前に、審査委員会の方で推薦人に連絡をとり一本化を願うのが良いのではないかという見解が出された。

西田賞への応募について、次回の可能性のある応募者には再度応募されるようにご案内することが定形文案と共に提案され、提案が認められた。

西田賞が「人に対する賞」であることと、受賞者の条件(2名まで連名を認める場合がある)の齟齬について議論された。また、連名の条件について、特段の確たる理由があつて規約に入れられた文言でなければ、これを外して良いのではないかという提案があり、賞の提案者である西田篤弘先生と顕彰委員会委員長が調整をすることとした。場合によっては”原則として”などの文言の挿入も検討することも含め、顕彰委員会委員長に一任する。

続いて、受賞者のセクションバランスについて、議論された。セクションボードに委員会は設置しないで、応募、推薦を奨励すること、とした。セクションバランスに関する文言については外して良いが”原則として”などの文言の挿入も含めて、賞の提案者である西田篤弘先生と顕彰委員会委員長が調整することが了承された。

審査の結果相応しい方が10名に満たなかった場合、どうすべきか議論され、10名に満たなくても構わないこととした。また審査の隔年の開催は今後も維持し、10名以内の受賞者を選ぶこととした。

学生旅費援助については顕彰委員会での意見が披露され、理事会でも意見が出されたが、今後どうするかについては、継続審議となった。来年度は2016年と同様に海外旅費と国内旅費の両方を扱う必要があるが、現在の法律では国外居住者への旅費の支出について税制上の問題等があるため。国外旅費と国内旅費の切り分けを明確にしてから、予算の総額をどうするかを勘案した上で、学生旅費補助の体制を考えていくこととした。

(4) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

現在作成中の平成28年度事業報告について説明があった。本報告書と平成28年度決算については、2017年の社員総会において承認される運びとなる。

(5) 北和之理事報告(財務担当)職務報告

平成28年決算案(3月15日現在版)および平成29年度の予算案について、報告があった。決

算案については 2017 年 4 月以降に確定した後に、2017 年 5 月に開催される社員総会で承認される。予算案については、前回の 1 月の理事会で示して以降、2017 年大会でのセッション数、講演数等が確定しているため、より確度の高い予算案となっている。この予算案では、投稿料等の収入増加と、講演数増に伴う講演会場等の追加による支出増があった。結果として 2017 年予算案では、約 2300 万円の赤字となっている。この赤字分は 2016 年度の黒字分(約 2200 万円)とほぼ相殺され、2017 年の JpGU-AGU ジョイントミーティング開催のための投資分が、2016 年と 2017 年の 2 年間でほぼ解消できるとの説明があった。

(6) 倉本圭理事(ジャーナル担当)職務報告

論文投稿・出版状況について報告があった。EPS との今後の協力体制については引き続き、検討中であるとのことだった。また、1 月と 3 月に行われた編集長会議の報告があった。PEPS 表彰制度、西田賞受賞者への PEPS への論文投稿依頼について説明があった。PEPS・EPS の代表による会議の報告があった。地球惑星科学関連学協会の連合体が連携し、日本の地球惑星科学コミュニティとして質の高いジャーナルを刊行するという理念を共有することを合意した。次期会合は、夏頃とし、両者の協力体制の確立を具体的に検討することとなった。EPS については今後、出版分野の範囲を拡大していく計画である。

(7) 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告

大会準備に関しては、2月16日17時の投稿締め切り以降、講演の採択、セッション編成等の膨大な作業を、セッションコンビーナー、プログラム委員会と事務局との緊密な連携によって、全ての作業をほぼ予定期限内に完了することが出来、3月10日に発表プログラムの公開を行なうことができた。2017年の採択講演数は5562件となり、2016年に比べて1300件(+33%)以上の大幅増となった。講演数は各セッションで増加しているが、特に大気・水圏セッションの講演数は、2016年の588件から2017年は1186件と倍増している。また講演はオーラル2863件。ポスター2699件と、目標としていた1対1の割合がほぼ達成されている。この結果は2016年大会からはじめた会場の配分方式が定着し、コンビーナーの皆さん方の協力のおかげである。海外からの投稿者は、50カ国から1192名となっている。2016年が海外からの参加者は363名であったので、今年度は800名以上の増加が見込まれる。

なお、幕張メッセ以外の大会会場名に、これまでアパホテルの記載を用いていたために、アパホテルを利用することについて、抗議のメール等があった。実際にはこの会場は「ウェディングヒル 東京ベイ幕張」という名称で、管理運営は㈱昭特製作所(SHOTOKU Co. Ltd.)という会社の婚礼業務部が行なっていて、連合としてアパホテルとは直接契約していない。上記質問者にはAGUと協議のうえ、その旨回答済みであり、了承されている。今後プログラム、案内等では、この会場名については、日本語表記は「東京ベイ幕張ホール」、英語表記は「Tokyo Bay Makuhari Hall」を使用することとした。従って、ウェブページ、プログラム等に記載する講演会場については、幕張メッセ国際会議場、幕張メッセ国際展示場、東京ベイ幕張ホールを用いる。

(8) 大会準備タスクフォース報告

末廣潔 TF 主査よりジョイント大会に向けての AGU との連携事項が資料の通り報告された。前回理事会(＃6 01/17/2017)以降の活動状況と活動方針の報告があった。

セッションの投稿者数は予想を超える数であったため、現在、セッション以外のイベントなどを企画準備中である。AGU 側基調講演は Lucy Jones さんに確定。International Mixer Luncheon は小谷亜由美さん主導で 100 人規模で実施予定である。Student Travel Support については、国際は AGU が担当する。国内は JpGU が担当する。AGU 側からの補助は 17K\$ である。Students Presentation Awards は JpGU 方式に AGU メンバーがレフェリー参加する。Students pop-up talks では国内学生主体チームと AGU 側の担当者と連携して、日本名「おしゃべり広場」を計画中である。

Hot topics discussion について、ディスカッションの場が設けられるようにこれから築きあげていけるように、協議中とのことだった。約 1000 人の海外からの参加者増が見込まれる為、国際参加者向けの JpGU 紹介パンフレットを作成中であるとの報告があった。配布用に 1000 部印刷予定する等、2018 年以降へ向けて AGU との今後の協力様式の引継ぎを行っていく。

(9) グローバル委員会活動報告

アジア戦略については提出予定だったが検討中である。個別のチャンネルを生かしながら戦略を立てていきたい。大会期間中にも連携を模索する。川幡穂高会長より、グローバル、大会委員会関係者と協議の上、Presidential reception への招待者を検討した旨、報告があった。理事、セクションプレジデントは、もちろん、招待され、AGU、- EGU、- AOGS の招待者と情報交換などを行なってほしい旨の発言があった。科学アタッシュ、出版社等にも声をかけて、Presidential reception へ招待する予定である。

(10) 教育検討委員会活動報告

第 10 回国際地学オリンピック収支、第 9 回地学オリンピック準備状況、日本科学オリンピック委員会設立について報告があった。教員免許状更新講習は文科省より、認定をうけたため、開設・募集開始へ向け最終準備段階中である。「地学基礎」提言について指摘を受け、文案の細部を修正した。文科省に再度確認し 4 月以降に提出予定である。文言に問題あれば、委員会まで連絡することとなった。

(11) ダイバーシティ推進委員会活動報告(小口千明理事)

ハラスメントについて理事会からの依頼に基づき委員会で議論をした。次年度前半にアンケートにて状況を把握し、後半に宣言文の案を作成、理事会承認のうえ会長名で発出するという活動計画を立てた。それ以降の計画として、専門委員会や窓口の設立についての議論があったことも紹介され、継続的に検討していく必要があることが報告された。

(12) その他

(12-1) 川幡穂高会長より、軍学の問題に関する、ユニオンセッションが開催され、川幡穂高会長・田近英一副会長もコンビーナーとなっている。個人を含めて意見を問われる可能性がある。本件に関する原則について、項目を検討した。

(12-2) 事務局より、学生優秀発表賞審査員募集の追加募集のお知らせがあった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18 時 30 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 29 年 3 月 23 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 7 回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	氷見山	幸夫	印

平成 29 年 3 月 度 入会 会 員

個人 情 報 の 為 非 公 開 と す る

平成28年度会員数推移

	正会員				准会員				大会会員				AGU会員			
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末						8021						418				1061
4月	107	31	3			8151	32	31	2			417	90			1151
5月	255	31	1			8434	233	31				615	362			1513
6月	4			776	1	7661	3					618	0			1513
7月	5		2			7664	1					619	0			1513
8月	1		3		4	7658	0				2	617			1508	5
9月	11	1	2			7668	1	1				617	10			14
10月	16		2		3	7679						617	39			53
11月	4	1	2			7682	1	1			56	561	4			55
12月	4					7686	3					564	14			69
1月	204	17				7907	36	17			5	578	133			197
2月	539	19			4	8461	109	19			7	661	499			696
3月	17	3	362		4	8115	10	3	5			663	10			703
	1167	103	377	776	23	8115	429	103	7	0	74	663	1161	0	1519	703
													1033	0	7	1238

正会員

准会員

大会会員

AGU会員

2017/3/31 8115 名

663 名

703 名

1238 名

変更
准会員から正会員へ

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月末				
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
	0	0	4	0

全会員

3月末	9712 名
4月	9943 名
5月	10819 名
6月	10049 名
7月	10057 名
8月	8546 名
9月	8592 名
10月	8736 名
11月	8693 名
12月	8735 名
1月	9324 名
2月	11036 名
3月	10719 名

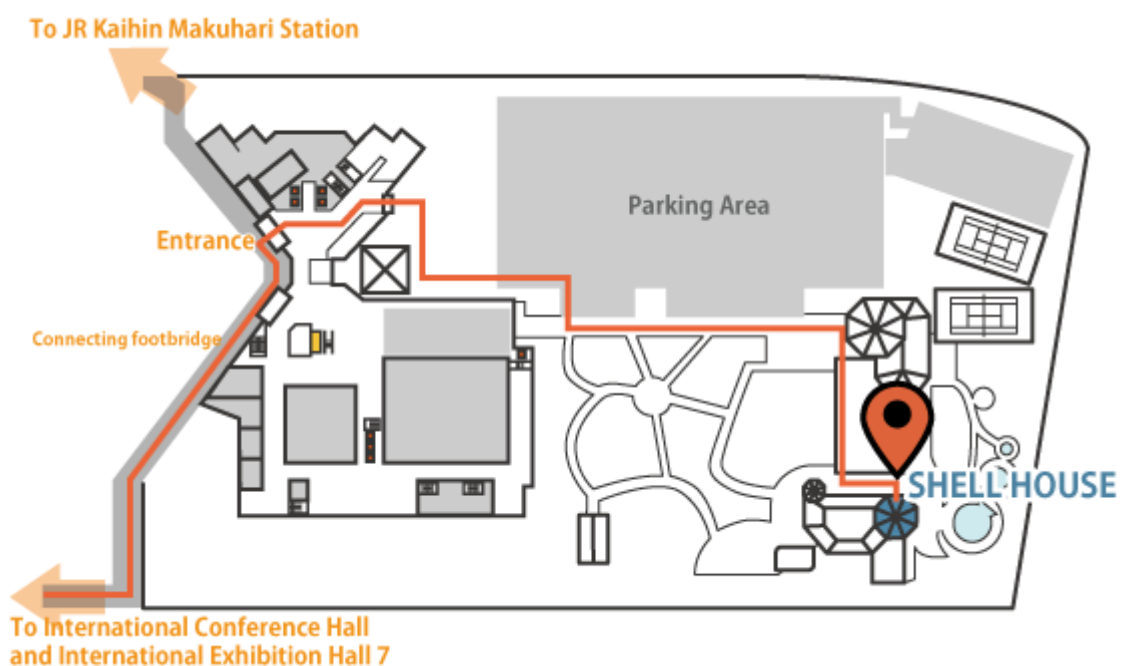
JpGU–AGU Joint Meeting 2017

- For a borderless world of geoscience -
May 20 - 25, 2017

The Japan Geoscience Union cordially invites you to attend the *Presidential Reception*

May 22 (MON) 19:00 - 21:00
HOTEL NEW OTANI MAKUHARI | Shell House

RSVP to Kayoko Shirai
office@jpgu.org | +81-3-6914-2080



Presidential Reception Invited Guest List

Date and Time: May 22nd, Monday
from 7:00pm–9:00pm
Place: Hotel New Otani Makuhari,
Shell House

	name		出欠
1	西田 篤弘	Nishida Prize/AOGS	○
2	Eric Davidson	AGU	
3	Carol Finn	AGU	○
4	Chirstine McEntee	AGU	
5	Erik Hankin	AGU	○
6	Frank Krause	AGU	
7	Jamie Liu	AGU	
8	Lauren Parr	AGU	○
9	Margaret Leinen	AGU	
10	Nanci Bompey	AGU	○
11	Benjamin Fong Chao	AOGS	○
12	Khoo Cheng-Hoon	AOGS	×
13	井出 哲	Board members	
14	ウォリス サイモン	Board members	○
15	小口 高	Board members	
16	小口 千明	Board members	
17	奥村 晃史	Board members	○
18	川幡 穂高	Board members	
19	北 和之	Board members	
20	木村 学	Board members	○
21	瀧上 豊	Board members	
22	田近 英一	Board members	
23	津田 敏隆	Board members	○
24	中島 映至	Board members	○
25	中村 昭子	Board members	○
26	中村 正人	Board members	○
27	西 弘嗣	Board members	
28	浜野 洋三	Board members	
29	原田 尚美	Board members	
30	日比谷 紀之	Board members	
31	古村 孝志	Board members	
32	Chi-Min Liu	Conveners	○
33	Craig Manning	Conveners	
34	Daniel Pastor-Galán	Conveners	
35	Danny Summers	Conveners	○
36	ELENA PETROVA	Conveners	○
37	Eleonora Ammannito	Conveners	
38	Geoffrey Plumlee	Conveners	
39	Hafiz REHMAN	Conveners	○
40	Hongliang Zhang	Conveners	
41	Horst Zwingmann	Conveners	○
42	Ingo Richter	Conveners	

【Presidential Reception List】

	name	出欠	
43	Jean-Claude Roger	Conveners	
44	John Brown	Conveners	
45	Kyu-Myong Kim	Conveners	
46	Lin Charles	Conveners	○
47	Linda Rowan	Conveners	
48	Ling Bai	Conveners	○
49	Loren Chang	Conveners	
50	Madhusoodhan Satish-Kumar	Conveners	
51	Matt Gerstenberger	Conveners	
52	Noé Lugaz	Conveners	
53	Pavel Groisman	Conveners	○
54	Ping-Yu Chang	Conveners	
55	Ramesh Singh	Conveners	○
56	Rebecca Asch	Conveners	
57	Robert Jenkins	Conveners	
58	Teh-Ru Alex Song	Conveners	
59	Thomas Fauchez	Conveners	
60	Timothy Byrne	Conveners	
61	Wei Yang	Conveners	
62	William Hawley	Conveners	
63	Xuzhang Shen	Conveners	
64	Yuei-An Liou	Conveners	○
65	沖 理子	Conveners	
66	中本 泰史	Conveners	
67	吳 泓昱	Conveners	○
68	張 銘	Conveners	○
69	片岡 龍峰	Conveners	
70	Philippe Courtial	EGU	○
71	Emily Wang	Elsevier	○
72	Erwan Monier	Great Debate Panelist	
73	Thorsten Kiefer	Great Debate Panelist	○
74	平田 直	Great Debate Panelist	○
75	関 華奈子	GSC Member	○
76	村山 泰啓	GSC Member	
77	田島 文子	GSC Member	○
78	木下 正高	GSC Member	
79	山岡 耕春	IUGG-IASPEI地震学会会長	
80	日置 幸介	IUGG-IASPEI測地学会会長	
81	Lucy Jones	Keynote Speakers	○
	梶田 隆章	Keynote Speakers	
82	坂本 尚義	Meeting Director	○
83	David Crisp	NASA/JAXA	○
	Gail Skofronick Jackson	NASA/JAXA	
84	Hideaki Miyamoto	NASA/JAXA	
85	James Green	NASA/JAXA	○
86	Michael Freilich	NASA/JAXA	○
87	Steven Clarke	NASA/JAXA	
88	藤本 正樹	NASA/JAXA	○

【Presidential Reception List】

	name		出欠
89	Dr. Christopher Blackerby	NASAアジア支部	○
	Bina Craig R.	Pcom members	△
90	Huixin Liu	Pcom members	○
91	Shamil Maksyutov	Pcom members	○
92	Sushil Atreya	Pcom members	○
93	William Lau	Pcom members	○
94	伊藤 進一	Pcom members	×
95	高橋 嘉夫	Pcom members	
96	高橋 太	Pcom members	
97	七山 太	Pcom members	
98	杉田 精司	Pcom members	○
99	西井 和晃	Pcom members	
100	池田 剛	Pcom members	
101	入船 徹男	Pcom members	○
102	樋口 篤志	Pcom members	○
103	堀 和明	Pcom members	
104	Bjorn Mysen	PEPS	○
105	Brooks Hanson	PEPS	×
106	Chung Hsiung Sui	PEPS	○
107	Rachel Burley	PEPS	
108	Xenia van Edig	PEPS	○
109	井龍 康文	PEPS	○
110	倉本 圭	PEPS	
111	佐藤 正樹	PEPS	
112	多田 隆治	PEPS	○
113	松本 淳	PEPS	
114	吉岡 祥一	PEPS	○
115	唐戸 俊一郎	PEPS	○
116	Ms. Elizabeth Hogben	Science Policy Maker	
117	大矢 聖子	Science Policy Maker	
118	Dr. Kellina Craig-Henderson	Science Policy Maker	
119	Dr. Leonidas Karapiperis	Science Policy Maker	
120	Dr. Joerg Schneider	Science Policy Maker	
121	Ms. Marilou Denis	Science Policy Maker	
122	Dr. Albert Lee	Science Policy Maker	
123	Dr. Chadaram Sivaji	Science Policy Maker	
124	大久保 修平	SCJ	
125	藤井 良一	SCJ	
126	生形 貴男	セクション幹事	
127	川合 義美	セクション幹事	
128	近藤 昭彦	セクション幹事	
129	橘 省吾	セクション幹事	
130	道林 克禎	セクション幹事	○
131	高野 淑識	セクション幹事	
132	須貝 俊彦	セクション幹事	
133	遠藤 一佳	セクションプレジデント	
134	大谷 栄治	セクションプレジデント	○
135	高橋 幸弘	セクションプレジデント	

【Presidential Reception List】

	name	出欠	
136	春山 成子	セクションプレジデント	○
137	蒲生 俊敬	セクションプレジデント	
138	Jan Margulies	Springer Nature	○
139	興野 純	Task Force Member	
140	小谷 亜由美	Task Force Member	○
141	近藤 康久	Task Force Member	○
142	末広 潔	Task Force Member	
143	三宅 弘恵	Task Force Member	○
	千葉県 知事 副知事		
144	千葉市 副市長		△
145	鎌田 俊一	MC	○

「三宅賞の JpGU への移行について」の事務に関わる内容に関する会議 議事要録

日時、場所：4月17日 11時30-12時15分、日本地球惑星科学連合事務局

出席者：JpGU 側：川幡会長、浜野事務局長、渡辺経理担当事務、杉村総務担当事務

地球化学研究協会側：廣瀬専務理事

目的：「三宅賞の JpGU への移行について」の事務に関わる内容に関して問題点やスケジュールなどを検討する。

趣旨：規則第1条が全体の趣旨を表す：「この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が学術賞「公益社団法人日本地球惑星科学連合 三宅賞」により、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は三宅泰雄博士のご提案と寄付金で設立された公益信託地球化学研究基金が事業として実施してきた「三宅賞」を維持することに由来する。」

1) 内閣府公益認定委員会への打診の際には、新規項目だてとするのは事務処理が大変なのと、もともと顕彰事項なので、今まで認められた「顕彰制度」の枠の拡大で対処する方針がよいのではないかとの方針となりました。

2) 日本地球惑星科学連合参加学会に「日本地球化学会」があり、用語としての「地球化学」で混乱・誤解を受けるといけないので、「地球惑星科学に関する物質科学」という語を用いることとなりました。

→基金との関連

3) *副賞として受賞者に1件あたり20万円を贈る。原資は JpGU の財産とは独立の「公益信託地球化学研究基金」（文部科学省が管理）によるものである。本項は規則には含めない。

*日本地球惑星科学連合のアウトリーチ活動のうち「公益信託地球化学研究基金」の趣旨にあうものについては、その活動を基金より賛助する。上述と同様の理由により、本項を規則に含めない。

という方針で、西田賞の規定に準拠して、「三宅賞」の規定（案）をたたき台として、準備しました。

4) 第3条 受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に1件を選ぶ。」については、三菱 UFJ 信託銀行より文部科学省に確認し、了承されています。

5) 今後のスケジュールとしては、事務に関わる事項についての会議概要報告を理事会で行い、連合大会後に、具体的な作業を確認して、内閣府あるいは文部科学省に「お伺い」をする予定です。

6) もう少し詰め作業を行いながら、「三宅賞の JpGU への移行について」の WG の理事の方のコメントをいただく会議を後日開催したいと考えております。規則（案）も含めて、会議内容を三宅賞移行委員会（古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事）に4月18日に報告しました。

----- 委員構成：

「三宅賞の JpGU への移行について」の WG の委員は4名で、川幡穂高会長、古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事 です。

furumura@eri.u-tokyo.ac.jp, hnishi@m.tohoku.ac.jp, amnakamu@kobe-u.ac.jp

議事録はこちら

http://www.jpгу.org/soshiki/minutes/2016/20160714rijikai_gijiroku.pdf

(4-3) 三宅賞の JpGU への移行について情報交換および検討開始の報告があり、蒲生俊敬大気水圏科学セクションプレジデントも含めて肯定的な意見が表明された。連絡会を設置し、基本的に西田賞の規則を参考に準備していくことが了承された。委員会は、JpGU 側より4名程度（川幡穂高会長、古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事）、地球化学研究協会より4名程度で構成される予定である。

地球惑星科学に関わる物質科学振興 三宅賞規則（案）

2017 年6 月xx 日 理事会制定

（趣旨）

第1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が学術賞「公益社団法人日本地球惑星科学連合 三宅賞」により、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は三宅泰雄博士のご提案と寄付金で設立された公益信託地球化学研究基金が事業として実施してきた「三宅賞」を維持することに由来する。

2 地球惑星科学に関わる物質科学は、地球あるいは惑星を物質科学の対象として研究する学問である。これは、自然科学としての物質科学のみならず、人類の生活する環境を守り、地球資源を人々によりよく役立つものとするなど応用も含めて不可欠な学問分野である。

(1). わが国の地球惑星科学に関わる物質科学研究の推進と普及をはかるため、学術賞「公益社団法人日本地球惑星科学連合 三宅賞」の贈呈を行なう。

(1). セミナー、講座、講習会、講演会の開催または斡旋

(2). 関連する必要な事業

（受賞者の要件）

第2 条 受賞者は、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている個人とする。

（選考・受賞者数）

第3 条 受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に1件を選ぶ。

（推薦）

第4条 選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者1名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書類（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。

〔推薦書類の構成〕

(1). 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

(2). 候補者の経歴、受賞歴

(3). 査読付き論文リストおよび主要な論文5編の別刷り

(4). 推薦理由書（A4で6ページ以内、日本語あるいは英語）

上記の書類は、自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。

(5). 2通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の2名、他薦の場合は推薦者以外の2名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する2名については会員・非会員を問わない。）

(6). 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

2. 推薦書類のMS Word ファイルとそのPDF を日本地球惑星科学振興西田賞事務局にメールにて送付する事とする。

3. 推薦者は、本人に授賞の意志があることを事前に確認しなければならない。

（審査委員会）

第5 条 理事会は、地球惑星物質科学振興三宅賞審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中から受賞者を選考する。審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）

第6 条 理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、受賞者を認定する。会長は表彰式において受賞者に賞状を授与する。

（推薦・審査の実施時期）

第7 条 候補者の推薦及び審査の時期は理事会が定める日程をもって行う。

(規定の改廃)

第8 条 この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

(1). この規則は、2017 年x 月xx 日から施行する。

(2). 本賞の授賞は201x 年度から開始し、以降、隔年（西暦の偶数年度）にて行う。

(3). 本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。

2017 年xx 月xx 日 理事会制定

三宅賞設置の件 関連議事録

平成 28 年度第 3 回理事会議事録抜粋

(1) 三宅賞の JpGU への移行について情報交換および検討開始の報告があり、蒲生俊敬大気水圏科学セクションプレジデントも含めて肯定的な意見が表明された。連絡会を設置し、基本的に西田賞の規則を参考に準備していくことが了承された。委員会は、JpGU 側より 4 名程度（川幡穂高会長、古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事）、地球化学研究協会より 4 名程度で構成される予定である。

理 事 会 決 議 事 項

学協会長会議規則

(趣旨)

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、学協会長会議に関し必要な事項を定めるものとする。

(学協会長会議の任務)

第2条 学協会長会議は、以下の事項等について、諮問に応え、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。理事会は連合の運営にあたり、学協会長会議の意見を尊重するものとする。

1. 連合の活動や制度、方針について
2. 学協会と連合の将来像と相互の協力体制について
3. 国の重要課題等に対する連合の意見の集約と提言の発出について
4. その他、学協会からの連合への要望について

(幹事会)

第3条 学協会長会議のもとに幹事会を置く。幹事会は、加盟学協会の意見を集約し、理事会と加盟学協会との情報共有をはかる。

- 2 幹事会の長は、学協会長会議議長とする。幹事会の長は、学協会長会議の委員の中から、サイエンスセクションや分野のバランスを考慮して、10名以内の幹事会メンバーを選任する。当連合の理事・監事は幹事会メンバーとなることはできない。
- 3 幹事会のメンバーの任期は、6月1日から1年間とする。ただし、団体会員の登録代表者の交代に伴い学協会長会議の委員を交代した幹事会メンバーは、幹事会の長の求めにより幹事会にオブザーバ出席することができる。
- 4 幹事会は、学協会長会議に先立ち開催される。また、幹事会の長が必要と認めた場合に開催するものとする。
- 5 加盟学協会との情報共有を促進するため、幹事会メンバーは、理事会にオブザーバ出席できる。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款(抜粋)

第2章 会員及び社員

(旧)

(法人の構成員)

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正 会 員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下、「法人法」という。)上の社員とする。

(以下省略)

(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置) (変更なし)

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款(抜粋)

第2章 会員及び社員

(新)

(法人の構成員)

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正 会 員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下、「法人法」という。)上の社員とする。

(以下省略)

(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置) (変更なし)

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

第4章 社員総会

(旧)

(構成)

第27条 社員総会は、団体会員及び代議員をもって構成する。

2 社員総会における議決権は、団体会員及び代議員いづれも1名につき1個とする。

第4章 社員総会

(新)

(構成)

第27条 社員総会は、**全ての**代議員をもって構成する。

2 社員総会における議決権は、代議員1名につき1個とする。

第6章 学協会長会議

(設置等) (変更なし)

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

第6章 学協会長会議

(設置等) (変更なし)

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

法人運営基本規程(抜粋)

第3章 代議員の選挙

(旧)

(代議員の定数)

第6条 代議員の定数は、理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の2倍とする。

法人運営基本規程(抜粋)

第3章 代議員の選挙

(新)

(代議員の定数)

第6条 代議員の定数は、**150名とする。**

第5章 社員総会の運営

(旧)

(社員の出席)

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

3 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

4 社員総会に出席する者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

- (1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること
- (2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること
- (3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること
- (4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面

により、その団体から指定を受けた者であること

5 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

第5章 社員総会の運営

(新)

(社員の出席)

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 (削除)

2 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

3 社員総会に出席する社員は、会場の受付にて、その出席資格の確認を受けなければならない。

4 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

第 8 章 学協会長会議

(旧)

(任期等)

第 15 条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

第 8 章 学協会長会議

(新)

(任期等)

第 15 条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

4 その他、学協会長会議に関する事項は、学協会長会議規則に定める。

学協会長会議および理事会 議事録抜粋

平成 28 年 5 月 23 日(火)第 14 回学協会長会議

(1) 連合第 7 期選挙について(津田会長)

連合の第 7 期代議員、セクション・プレジデント、さらに、今回初めて行われた理事候補者の選挙について津田会長より報告があった。平成 27 年 8 月 4 日から 11 月 2 日までの代議員選挙により選出された次期代議員 100 名の中からセクション・プレジデントが自薦・他薦により選出された。また、この次期代議員から自薦・他薦により理事への立候補者を募った上で選挙が実施され、その結果を基に、平成 28 年 2 月 29 日、役員候補者推薦委員会で、理事候補者 20 名、監事候補者 3 名が選出された。本学協会長会議の後の定時社員総会においてこれらの役員選出に関する審議を行う予定であることが報告された。

また今回の代議員選挙について、水関連学協会(日本地下水学会、日本雪氷学会、水文・水資源学会、日本温泉科学会、日本水文科学会、日本農業気象学会、日本陸水学会、陸水物理研究会)から提出された連合要望書、さらにそれに対する連合からの回答が紹介された。

今回の代議員選挙では旧来の 5 名に投票する方式から、選挙区分に割り当てられた代議員定員の半数までを選んで投票する方式に変更したが、これが水関連学会から代議員が選出されなかったことと関連したかどうかについての統計的分析の実行は、投票内容の非公開が保障されている以上、事実上不可能であるとの説明があった。今後は、1 年半後に行われる次回の代議員選挙に向けて専門家の意見なども聞きながら投票方式に関する検討を続けるとともに、投票率を上昇させるべく尽力していく所存であることが報告された。

また、代議員には所属学協会を超えて、各セクションの振興、さらに連合全体の活動をリードする役割が期待されており、所属学協会の利益代表ではないことについての理解があらためて求められた。

(2) 団体会員に関する定款および関連規則の変更について(津田会長)

団体会員に関する定款および関連規則の変更に関して、昨年度定時社員総会以降の検討状況について津田敏隆会長から説明がなされた。引き続き理事会にて検討し、来年度の定時社員総会にて定款及び関連規則の変更を議事として諮ることを予定している旨の報告があった。

具体的には、団体会員について、社員としてではなく別の形で連合の運営に関わるよう変更することを検討している。その一案として、理事会との連携強化に向け、従来の学協会長会議に加え、学協会長会議幹事会(仮称)の設置とその具体的な開催を出席者に諮り、ともに了承された。

平成 28 年 10 月 25 日(火)第 15 回学協会長会議

(1) 団体社員の体制および規則について

連合の団体社員の体制変更に伴う規則の変更について、川幡会長より説明があった。幹事会設置について、議論され、以下の内容を理事会に提案することとなった。

(1-1) 規則について

- 1.学協会長会議規則(案)に目的を追記した規則を理事会で作成する。
- 2.法人運営基本規則の第 8 章から上記 1 の学協会長会議規則を参照できるようにする。
- 3.法人運営基本規則の第 8 章、「学協会長会議」に幹事会について記載する。

(1-2) 申し合わせについて

学協会長会議幹事会の運営に関する申し合わせ(案)を理事会と学協会長会議で作成する。

(1-3) 幹事会メンバーについて

第 7 回理事会(3 月開催)までに前議長(海洋学会、日比谷会長)と現在の議長(地球化学会、
垠本会長)とで検討し、年内を目標にまとめる。

(1-4) 理事会へのリクエストについて

1.規則か申し合わせに、理事会へのオブザーバとしての幹事会の意見を尊重する、という内容
を記載することが求められた。

(2) 幹事会について規則に記載する。

平成 28 年 11 月 25 日(金)第 5 回理事会

川幡会長より、10 月 25 日に開催された学協会長会議の報告があった。幹事会メンバーについ
て、第 7 回理事会(3 月開催)までに前議長(海洋学会、日比谷会長)と現在の議長(地球化学会、
垠本会長)とで検討し、年内を目標にまとめることになった旨が報告された。

古村理事より、定款の変更、学協会長会議規則(案)について説明があった。

鈴木監事より、学協会長会議規則(案)について、第 4 条「学協会長会議は、以下の事項等につ
いて、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。」に「諮問に応え」を追記し、「学協会
長会議は、以下の事項等について、諮問に応え加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述
べる。」とすることの提案があり、これが了承された。

平成 29 年 1 月 17 日(火)第 6 回理事会

学協会長会議の幹事会規則(案)について、古村理事より説明があり、幹事会規則(案)の「サイ
エンスセクションや分野、学会規模を考慮して」を「サイエンスセクションや分野のバランスを考
慮して」に修正することを確認した。法人運営基本規定の第 6 条に記載の「代議員の定数は、150
名とする。」の定数を確認した。代議員の定数に関しては、今年実施される代議員選挙に関係す
る為、代議員選挙についての課題を次回理事会(第 7 回理事会)で検討することが確認された。
定款変更について決議し、社員総会に諮ることとした。なお、学協会長会議には近日中に連合会
長より本規則(案)を提出し、検討を依頼することとした。その他、連合の後援・協賛・共催一覧の
確認があった。続いて、平成 28 年度事業報告および平成 29 年度の事業計画書の説明があった。

平成 29 年 3 月 23 日(木)第 7 回理事会

学協会長会議の幹事会規則(案)への学協会(日本陸水学会、リモートセンシング学会、日本
地質学会)からの質問への回答案について川幡穂高会長より説明があり、議論された結果、理事
会に提出した文案が認められた。

また、垠本尚義学協会長会議議長より、幹事会の規則が、平成 29 年度第 1 回理事会で承認さ
れれば、その後引き続き開催される次回の学協会長会議で幹事会メンバーを選出する予定であ
る旨、報告があった。

1. 論文投稿・出版状況(2017/4/20 現在)(資料 J_1)

・論文投稿数(Total:231)

～2014 年: 71 (Editorial-3, Correction-1, Review-21, Research-45, Methodology-1)

2015 年: 75 (Review-21, Research-50, Methodology-3, Editorial-1)

2016 年: 61 (Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4)

2017 年: 24 (Review-2, Research-18, Methodology/Preface/Datapaper-4)

・出版論文数(Total:125 Review 論文 27.7%)

～2014 年: 29 (editorial-3, Correction-1, Review-7, Research -18)

2015 年: 46 (Review-15, Research-31)

2016 年: 38 (Review-10, Research-22, Methodology-1, Preface-3, Editorial-1, correction-1)

2017 年: 12 (Review-1, Research-11)

・査読中 : 30 (Review-3, Research-24, Methodology/Datapaper-3)

・出版校正中: 1 (Review-1)

・reject/withdrawn 済: 75 (33.3%)

* WOS の計算方法に則った 2016 年度の IF 試算値は 2.240。(資料 J_2)

2. 編集長会議開催

H28 年度 第 7 回編集長会議 (2017/3/6) :

・次世代テーマの論文の受入れについて議論した。良い論文は取り上げたいが、PEPS の信頼性にかかわるので、対象となる論文は編集長間で検討し、慎重に判断する。

・出版社側で予告なく投稿規定が頻繁に変更され、投稿時と著者校正時に相違が発生するために著者が混乱する問題が発生している。投稿用テンプレートに、投稿後に規定が変更された場合は制作部門の指示に従うよう注意書きを加える。

・2017 年度 Most accessed paper 賞論文 3 論文、Most cited paper 賞論文 2 論文を決定し、理事会にて承認された。

H29 年度 第 1 回編集長会議 (2017/4/12) :

・課金システム不具合による著者への誤った請求や、画面表示等の問題について報告があった。改善を申し入れているが、システム移行中との事で、都度対応。

・Data paper 論文のサイズの大きい data は、本来、国内に半永久的に保障される repository に置かれる事が望ましいが、現在は整備されていないので、問い合わせがあったら、Springer の奨励するリストを紹介し、著者判断とする。

3. 編集委員交代

日本地下水学会の役員交代に伴い、杉田文教授(千葉商科大)から竹内真司准教授(日本大学)に編集委員交代の申し出があった。

4. PEPS 特別セッション

JpGU-AGU Joint meeting2017 で 14 セッション、24 名の外国人研究者を招待する。(資料 J_3)
JpGU2016 までに特別セッション・特別シンポジウムで 54 名を招待し、投稿率 72%、出版率 56%(30 論文)、Reject 率 11%。未投稿者へは投稿依頼を継続する。

■ 出版状況

	2014				2015				2016				2017				Total			
	Review	Research	Methodology	Total	Review	Research	Methodology/Debate	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	0	0	0	0	10	7	0	17
2. Atmospheric and hydrospheric	2	5	0	7	2	3	0	5	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.4%	5.9%	0.0%	14.3%
3. Human geosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	5.0%	11.8%	0.0%	16.8%
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	4	16	0	20	0	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%
5. Biogeosciences	1	0	0	1	1	3	0	4	8.7%	34.8%	0.0%	43.5%	8.3%	33.3%	0.0%	41.7%	8.4%	35.3%	2.5%	46.2%
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	2	2	0	4	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	1.7%	6.7%	0.0%	8.4%
Subtotal	7	18	0	25	15	31	0	46	10	22	4	36	1	11	0	12	33	82	4	119
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	27.8%	61.1%	11.1%	100%	8.3%	91.7%	0.0%	100%	27.7%	68.9%	3.4%	100%
Total	-	-	-	29	-	-	-	46	-	-	-	38	-	-	-	12	-	-	-	125

■ 投稿状況

	2014				2015				2016				2017				Total			
	Review	Research	Methodology	Total	Review	Research	Methodology/Debate	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total	Review	Research	Methodology/Data	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	1	3	0	4	13	25	1	39
2. Atmospheric and hydrospheric	5	7	0	12	3	8	0	11	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	4.2%	12.5%	0.0%	16.7%	5.8%	11.1%	0.4%	17.3%
3. Human geosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	0.0%	20.8%	4.2%	25.0%	4.0%	12.9%	0.4%	17.3%
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	10	23	2	35	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.4%	7.6%	0.0%	8.0%
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	0.0%	25.0%	4.2%	29.2%	7.1%	29.3%	2.7%	39.1%
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	5	4	0	9	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%	0.9%	5.3%	0.4%	6.7%
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	1	4	2	7	1	1	1	3	9	14	3	26
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	10.0%	83.3%	6.7%	100%	8.3%	75.0%	16.7%	100%	22.2%	72.4%	5.3%	100%
Total	-	-	-	71	-	-	-	75	-	-	-	61	-	-	-	24	-	-	-	231

注: 2016年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿1件も含むため、実際の投稿受付番号60より1件多い。

■ 編集状況

	(2017/4/20 現在)				Total			
	Review	Research	Methodology/Debate/Case Study/Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total		
Published	33	82	4	119	6	125		
Accepted including Provisionally-accepted	14.7%	36.4%	1.8%	52.9%	0	1		
Under review	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	1	30		
Rejected/Withdrawn	1.3%	10.7%	1.3%	13.3%	0	75		
Total	49	164	12	225	6	231		
	21.8%	72.9%	5.3%	100.0%	-	-		

Google Scholar、および Clarivate Analytics (旧 Web of Science) の横断検索に基づく、PEPS論文被引用状況

2017/2/28現在

	論文数	2016/1/1～2016/12/31の被引用回数				WoSの横断検索データベース調査
		Google Scholar データベース調査				
		ジャーナルから	(うちWoS採録誌から)	書籍、学会発表、学位論文等から	合計	
2014/4/22～2014/12/31に出版された論文 (Editorial 4編を含む)	29	83	(67)	4	87	74
2015/1/1～2015/12/31に出版された論文 (Editorial/Preface 2編を含む)	46	135	(91)	12	147	94
合計 (Editorial/Preface 6編を含む)	75	218	(158)	16	234	168
2016/12/31の被引用率		2.907	2.107	0.213	3.120	2.240

*被引用率: 2014年および2015年に出版された論文が2016年に引用された回数を、2014年と2015年に出版された論文合計数で割った値

2017JpGU PEPS招待者リスト(2016/4/20)		2017/4/20現在
提案者	セッション分野/タイトル	招待者
Bjorn Mysen(Carnegie Institution of Washington), 大谷先生(東北大学), 岩森 光(JAMSTEC) Catherine McCAMMON(Univ. Bayreuth, Germany)	【固体地球科学 S-IT26】地球内部科学・地球惑星テクトニクス Fluid-mediated processes and properties near convergent plate boundaries	Prof. Peter Van Keken (Carnegie Instn. Washington, USA) Department of Terrestrial Magnetism
		prof. Bruno Reynard(Ecole Normale Supérieure de Lyon, FRANCE)
和田 浩二(千葉工業大学惑星探査研究センター)	【宇宙惑星科学 P-PS03】惑星科学 Regolith Science	Prof.Daniel J. Scheeres(The University of Colorado Boulder) Department of Aerospace Engineering Sciences Colorado Center for Astrodynamics Research
		Dr. Julie Brisset(University of Central Florida) Florida Space Institute – Center for Microgravity Research Department of Physics
ジェンキンズ ロバート(金沢大学) 渡部 裕美(JAMSTEC) 延原 尊美(静岡大学) 間嶋 隆一(横浜国立大学)	【地球生命科学 B-PT04】古生物学・古生態学 Evolution of Chemosynthetic Ecosystem in Earth History	Dr.Adrian Glover(Natural History Museum, London, UK)
		Prof.Pei-Yuan Qian,Hong Kong University of Science and Technology
ELENA PETROVA (Lomonosov Moscow State University, Moscow, Russian Federation) 松島 肇(北海道大学)	【地球人間圏 H-DS10】防災地球科学 Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	Prof. Vivek Shandas, Portland State University, USA
小口千明(埼玉大学)	【地球人間圏 M-IS07】領域外・複数領域 Conservation of natural geosites and cultural heritages: weathering process and damage assessment	Prof. Akos Torok (Budapest University of Technology and Economics ,Hungary)
		Dr. Magdalini Theodoridou (University of Cyprus, Nicosia,Cyprus)
小口千明(埼玉大学)	【地球人間圏 H-TT22】計測技術・研究手法 Non destructive techniques applied to stone cultural heritages	Celine Thomachot-Schneider (University of Reims Champagne-Ardenne,France)
		Patricia Vázquez (University of Reims Champagne-Ardenne France)
深畑幸俊(京都大学 防災研究所 地震予知研究センター) Robert Holdsworth(Durham University), Jeanne Hardebeck(USGS), 岩森 光(JAMSTEC)	【固体地球科学 S-CG62】固体地球科学複合領域 Dynamics in mobile belts (変動帯ダイナミクス)	Bruce Hobbs 教授(西オーストラリア大学,The University of Western Australia)
		Tim J. Wright 教授(英国リーズ大学,The University of Leeds)
道林克禎(静岡大学) 森下 知晃(金沢大学) Henry JB Dick(Woods Hole Oceanographic Institution)	【固体地球科学 S-CG63】固体地球科学複合領域 Hard-Rock Drilling: Oceanic Lithosphere to Island Arc Formation and Beyond(ハードロックドリリング)	Henry Dick ウッズホール海洋研究所, USA
		Masako Tominaga、テキサスA&M大学, USA
横川美和(大阪工業大学) 泉 典洋(北海道大学) Svetlana Kostic(San Diego State University)	【固体地球科学 S-CG65】体地球科学複合領域 Turbidity currents: from trigger to formation of sediments and morphology(混濁流)	Svetlana Kostic(San Diego State University,USA)
		Eckart Meiburg、 Director, Center for Interdisciplinary Research in Fluids University of California at Santa Barbara
多田隆治(東京大学)	【領域外・複数領域 M-IS06】領域外・複数領域 Evolution and variability of Asian Monsoon and its linkage with Cenozoic global cooling アジア・モンスーンの進化と変動、新生代寒冷化との関係	Christian Betzler (University of Hamburg)
		Peter Clift (Louisiana State University)
		Dick Kroon (University of Edinburgh)
末広 潔(JAMSTEC) 西 弘嗣(東北大学) 村山雅史(高知大学)	【Union U-03】 Discoveries from Subseafloor Sampling and Monitoring using Scientific Ocean Drilling	Dr Ron Hackney(Geoscience Australia(GA:豪州地球科学研究所))
Simon Wallis(名古屋大学)	【固体地球科学】S-GL33 :Geodynamics of convergent margins: theoretical, laboratory and natural examples	Prof John Platt (University of Southern California)
小林憲正(横浜国立大) 大石 雅寿(国立天文台) 藪田 ひかる(広島大学) Joseph L. Kirschvink(東工大、ELIS)	【地球生命科学】B-AO01 [EE] Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	Dr Zita Martins, Imperial College London (UK)
江口菜穂(九州大学)	【大気水圏科学】A-AS09 Stratosphere – Troposphere Interaction 成層圏-対流圏相互作用 ―統一領域としての新しい視点―	Sean Davis, NOAA ESRL Chemical Sciences Division

2017 年連合大会準備状況報告

【Overview】

名称	JpGU-AGU Joint Meeting 2017
会期	2017 年 5 月 20 日(土)～5 月 25 日(木) 6 日間
会場	幕張メッセ 国際会議場(17 会場×6 日間) 国際展示場(ポスター発表および展示ブース) 東京ベイ幕張ホール(11 会場×6 日間)

【Important Dates】

2016 年	
9 月 1 日(木)～10 月 13 日(木)	セッション提案
10 月 13 日(木)～10 月 17 日(月)	セッション提案 (予備期間)
11 月 14 日(月)	コマ割公開
2017 年	
1 月 6 日(金)	投稿・参加登録開始
2 月 3 日(金)	投稿早期締切(～12:00)
2 月 16 日(木)	投稿最終締切(～17:00)
3 月 8 日(水)	採択通知
3 月 10 日(金)	発表プログラム一般公開
5 月 8 日(月)	早期参加登録締切(～17:00)
5 月 11 日(木)	予稿 PDF 公開



日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol. **13**
May, 2017 No. **2**

NEWS

JpGU-AGU Joint Meeting 2017のご案内 1
学術会議日より 17

TOPICS

日本の国石「ひすい」 18
急激な地球温暖化は海洋生態系に
何をもたらすのか? 20

BOOK REVIEW

海洋底地球科学 23

INFORMATION

24

JGL

Japan Geoscience Letters

2017 No. **2**

NEWS

JpGU-AGU Joint Meeting 2017のご案内

Joint Meetingの概要

コンベンションホールB, 301A, 301B, 302,
303, 304

東京ベイ幕張ホール/A01~A05, A07~A11

開催日時・会場

2017年5月20日(土)~25日(木)

幕張メッセ国際会議場・国際展示場(千葉市美浜区中瀬2-1)

東京ベイ幕張ホール(千葉市美浜区ひび野2-3)

ポスター会場

幕張メッセ国際展示場(ホール7)

講演会場とタイムテーブル

タイムテーブル

AM1/09:00~10:30 AM2/10:45~12:15

PM1/13:45~15:15 PM2/15:30~17:00

PM3/17:15~18:30

ポスターコアタイムはAM2~PM3の中で開催されます。

25日はPM2(16:45)で終了となります。

口頭講演会場

幕張メッセ国際会議場/101, 102, 103, 104, 105, 106, 201A, 201B,
202, 国際会議室, コンベンションホールA,

…… 基調講演開催のお知らせ ……

JpGUとAGUとのジョイントミーティングを記念し、21日(日)に基調講演を開催いたします。JpGUからは、2015年にノーベル物理学賞を受賞されました梶田隆章氏、AGUからはアメリカで最も市民に知られる地震学者のLucy Jones氏をお招きし、ご講演いただきます。大会ご参加の皆様にご聴講いただきたく、この時間帯には他のセッションは開催されません。会場には最大1,600人までお入りいただけます。AGUと共同で開催される本大会を象徴する、素晴らしいセッションとなるものと確信しています。

JpGU-AGU Joint Meeting 2017 プログラム委員長: Huixin Liu, 入船 徹男

日時: 21日(日) PM2 (15:30~17:00)

会場: 幕張メッセ国際会議場 2F コンベンションホール (A, B)

講演言語: 英語 (パブリックセッションのみの参加の方に限り、同時通訳レシーバをご用意します。※数に限りがありますので事前登録をお願いいたします。)

講演者(講演順): Lucy Jones氏(California Institute of Technology), 梶田 隆章氏(東京大学宇宙線研究所)



Time Table

15:30~15:35 Introduction Eric Davidson (AGU President)

15:35~16:15 「Disaster Resilience in the 21st Century:
Improving the communication between science and society」 Lucy Jones

16:15~16:20 Introduction 川幡 穂高 (JpGU President)

16:20~17:00 「Exploring the Universe with neutrinos, gravitational waves and gamma rays」 梶田 隆章

発表者の方へ

発表日時(時間、会場)を再度採択メール及び大会プログラムにてご確認ください。

大会プログラム URL:

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpguagu2017/top>

※スマートフォン用アプリはPDFの公開(5月

11日予定)後のリリースとなります。



口頭発表について

会場に発表用のパソコンはご用意しておりませんので各自ご持参ください。プロジェクトのaspect比は16:9です(4:3も可)。Dsub15ピンとHDMI端子が使用可能です。(HDMIでの接続をご希望の際は設定の変更が必要となるため会場係にお声がけください)

ポスター発表について

ポスターの掲示時間は発表日の9:00～18:30です。

※ポスター発表のコアタイムは一部のセッションを除き、昼間(AM2～PM2)に1コマとPM3(最終日はPM2)に1コマの、合計2コマをご用意しています。コアタイムの開催時間は大会プログラムでご確認ください。

コアタイムにはできる限り自身のボードの前にいてください。滞在可能な時間が限られている場合には、ボードに滞在時間票を掲示しておいてください。滞在時間票は会場にご用意しております。

ボードサイズはW180×H90(cm)です。今大会は横長のボードとなりますのでご注意ください。ボードへのポスターの貼付にはプッシュピンを使用してください。プッシュピンは会場にご用意しております。

ポスターは発表時間終了後各自お持ち帰りください。終了時刻を過ぎても掲示されているポスターについては破棄させていただきます。

※やむをえず大会への参加が難しくなった場合には、確定次第コンピーナにご相談ください。

セッション言語

大会の公用語は英語と日本語です。セッションで使用される言語は、各セッションタイトルの前に付いている言語記号(EE, EJまたはJJ)でご確認ください。

EE 発表資料(スライド・ポスター)と発表言語は英語に限ります。

EJ 発表資料は必ず英語で作成してください。発表言語は発表者が自由に選択します。

JJ 発表資料と発表言語を発表者が自由に選択します。

受付時間

5月19日(金) 17:00～19:00

5月20日(土)～24日(水) 8:00～18:30

5月25日(木) 8:30～16:45

※19日は17:00～19:00、20日～24日は17:00～18:30に翌日の受付も行えます

受付方法

受付会場

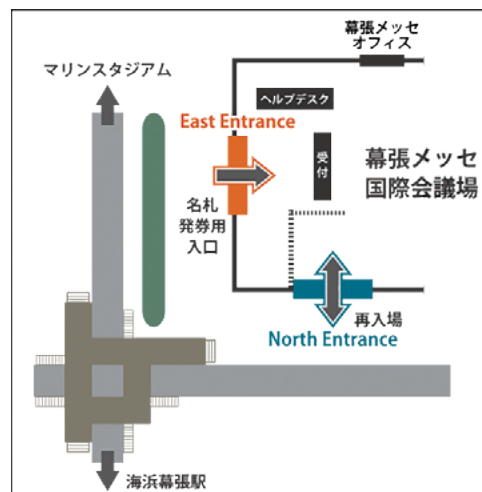
幕張メッセ国際会議場1F入口(East Entrance)

※東京ベイ幕張ホール(A01～A11)でのセッションに参加される方

も、必ず幕張メッセ国際会議場にて入場手続き(入場証の発券)をお済ませください。入場証(名札)のない方はセッション会場に入場できません。

※国際会議場への再入場(入場証(名札)をすでにお持ちの方)はNorth Entranceをお使いください。

※展示ホール7、東京ベイ幕張ホール、国際会議場2階連絡通路入口では入場証(名札)の発券はできませんのでご注意ください。



お持ちいただくもの

入場証(名札) 発券用e-チケット

※参加登録後、会員ログイン画面より表示・印刷が可能です。

入場証発券用e-チケットをお忘れになりますと、入場にお時間をいただきますので、必ずお持ちください。

学部生以下の方は学生証

事前参加登録の有無に関わらず、必ず日本語または英語の学生証をご用意ください。学生証をお忘れになりますと、学生割引を適用できません(事前参加登録済みの方もご入場できません)。

※会場では日本語のプログラム冊子は配布いたしません。必要な方は本誌をお持ちください。著者インデックスは会場配布の英語プログラム冊子に掲載されています。

事前参加登録がお済みでない方

参加登録は会期開始後も随時ご自身のパソコン・スマートフォン等から行えます。ご来場前にご自身で参加登録をお済ませいただき、印刷した入場証発券用e-チケットを、国際会議場1F(East Entrance)受付のチェックインカウンターへご持参ください。(スマートフォン、タブレットでの表示による発券も可能ですが、読み取りにお時間がかかる場合もあります。)

当日会場での登録は、大変お時間がかかり、発表に間に合わない場合もございます。できる限りご来場前にご登録をお済ませください。※会場での参加登録であっても参加費の決済にはクレジットカードが必要です。現金でのお支払いはできません。

参加登録と参加費

ご来場前に、お手元の確認メールや会員ログイン画面にて参加登録状況の確認をお願いいたします。

(予稿投稿・会員登録の他に大会への参加登録が必要となります。)

参加登録費

5/8(月) 17:00 以降は下記通常料金(税込)が適用されます。詳しくは大会ホームページでご確認ください。

【全日程】	一般	教員・大学院生・研究生	学部生以下・シニア
会 員	30,240 円	16,200 円	無 料
非会員	43,200 円	25,920 円	無 料

【1 日 券】	一般	教員・大学院生・研究生	学部生以下・シニア
会 員	19,440 円	10,800 円	無 料
非会員	27,000 円	19,440 円	無 料

シニア会員の方へ

70 歳以上で身分が「シニア」の方は、無料でご参加いただけますが、参加登録のお手続きと年会費のお支払いは必要となります。ご来場前に会員ログイン画面より登録いただき、入場証発券用 e-チケットを印刷してお持ちください。

中高生及び大学生の方へ

大学生(以下)の方は無料でご参加いただけます。参加登録には JpGU の ID が必要となりますので、お持ちでない方は新規で作成してください。参加登録のお申し込みは会員ログイン画面から行えます。ご来場の際は入場証発券用 e-チケットと学生証を必ずお持ちください。

※参加申込は大会開催中も常にオンラインで受け付けておりますので、お申し込みの上でご来場ください。

※ご入場の際に学生証の提示が無い場合には、一般料金が発生してしまいますので、忘れずにご持参ください。

2017 年度大会参加 ID (17 から始まる ID) をお持ちの方へ

大会参加 ID で参加される方は「非会員」です。会員割引料金は適用されず、非会員料金となりますのでご注意ください。正会員としての参加をご希望の場合は、現在の大会参加 ID とは別に新しく正会員 ID を作成し(年会費が発生します)、正会員 ID から参加登録を行ってください。大会終了後、大会参加 ID をこちらで削除させていただきます。

※AOGS, EGU 会員の方につきましては、17 から始まる 2017 年度大会参加 ID であっても会員料金でご参加いただけます。

「パブリックセッション」(一般公開)のみの参加者の方へ

パブリックセッションのみ参加の場合、参加費は必要ありません。当日直接パブリックセッションデスクへお越しください。

領 収書

領収書は会員ログインページからご自身で発行できますので、当日会場でのお渡しはありません。宛名等の書き換えの必要がある方はヘルプデスクに書き換え用の申込用紙をご用意しています。

ヘルプデスク

(幕張メッセ国際会議場 1 階受付)

1F 受付のヘルプデスクでは下記ご相談を受け付けております。
各種お支払い／入場証(名札)再発行／領収書書き換え申請／登録情報の確認／登録身分の変更／同伴券の発行／会合参加受付／プレス受付
その他にも何かお困りのことがございましたらお声がけください。

ク ローク

(幕張メッセ国際会議場 1 階ロングカウンター奥)

開設時間

5 月 20 日(土)～24 日(木) 8:00～18:45*

5 月 25 日(木) 8:00～17:15

- ・PC を含む貴重品はお預かりできません。
- ・クロークの終了時間をすぎたお荷物は翌日の朝までお返しできませんので、お引き取りの時間にご注意ください。
- ・最終日までお引き取りいただけなかったお荷物は着払いにて後日お送りさせていただきます。
- ・クロークの開設時間を過ぎるお荷物については、幕張メッセの有料コインロッカー(国際展示場 2 階ホール 7, 8 前)をご利用ください。

※5 月 23 日の表彰式及び懇親会参加者の方がクロークをご利用される場合は、必ず幕張メッセのクロークから荷物をお受け取りになられた上で会場(東京ベイ幕張ホール)へ移動してください。表彰式、懇親会終了後の荷物の取り出しは行えません。

東京ベイ幕張ホールにもクロークをご用意しております。

東京ベイ幕張ホールクローク利用可能時間

5 月 20 日(土)～22 日(月), 24 日(水) 8:30～17:30

5 月 23 日(火) 8:30～21:30

5 月 25 日(木) 8:30～15:30

連 合大会本部

場所：(本部) 幕張メッセ国際会議場 2 階 205 号室
(分室) 幕張メッセ国際展示場ホール 7 Study room 2
(AGU Office) 幕張メッセ国際会議場 2 階 203 号室
落し物・忘れ物は大会本部にてお預かりしております。

大 会期間中の連絡先

現地でのお問合せは本部(205 号室)または 1F 受付のヘルプデスクへお越しください。

E-mail : office@jpgu.org Tel : 070-5596-9414

大会期間中、緊急の連絡は E-mail ではなく電話でお願いします。

セッションコンビーナからのお知らせ

発表内容の変更や、コンビーナから参加者の皆様へのお知らせを、大会ウェブページ上に「セッション情報」として公開しております。時間の変更や発表者への注意事項などもありますので、参加予定のセッションについては必ずご確認をお願いいたします。



各種特別室のご案内

● Prayer Room

ムスリムの方へ Prayer Room をご用意しております。幕張メッセ国際会議場 2 階 214 (男性), 215 (女性) です。必要とされている方がいらっしゃいましたらご案内してください。

● 休憩室

展示ホール内 Study room 1 を参加者休憩室としてご用意しています(Wi-Fi 使用可、飲食可)。ぜひご利用ください。東京ベイ幕張ホール

の A06 会場も休憩所としてご利用いただけます (Wi-Fi 使用可, 持ち込み飲食不可)。

●キャリア相談コーナー

展示ホール 7 入口横に、キャリア相談コーナーを設けます。進路のことや現在の待遇等でお困りのことがありましたら、相談員にご相談ください。

●ORCID プロモーションコーナー

JpGU では、2018 年大会へ向けて、会員の皆様の ORCID ナンバー取得の推進を行ってまいります。ORCID の登録画面をご提示いただくことでノベルティをご用意いたしますので、ぜひこの機に ORCID ナンバーを取得しお立ち寄りください。(現地に登録も可能です)

※ ORCID についてはこちらの URL から、JGL 連載企画「もっと知りたい ORCID」もご覧ください。 <http://www.jpgu.org/orcid/>

コヒーブレイク

口頭講演の合間に無料のコーヒーとミネラルウォーターをご用意いたします。

時 間

10:30 ~ 10:45 と 15:15 ~ 15:30 の 2 回
(21 日と 25 日は午前の 1 回のみ)

場 所

幕張メッセ国際会議場 1F, 2F, 東京ベイ幕張ホール A06

展示ホールでのコーヒーサービス

ポスター及び展示ブースのある展示ホール 7 では、休憩時間に限らず、終日コーヒーのサービスを行っております。

ウォーターサーバー

幕張メッセ国際会議場内及び展示ホール 7 には、ウォーターサーバーをご用意いたします。

リフレッシュメントタイム

PM3 のポスターコアタイム (25 日は PM2) に参加される方にビールの無料サービスをご用意いたします。この機会に様々な分野の方と議論を交わしてください。(準備数がなくなり次第終了)

5 月 20 日 ~ 24 日 17:15 ~ / 5 月 25 日 15:30 ~

場所: ポスター会場 (展示ホール 7)

ランチ販売等

幕張メッセ国際会議場 ※ランチタイムのみ

1F 受付前(屋外): ケータリングカー

1F 103 周辺: スナック販売

ポスター会場 (展示ホール 7) ※終日

スナック販売

学会参加者向けサービスクーポン

幕張メッセ周辺施設において、大会参加者向けサービスを実施しています。参加店舗は会場配布するクーポンマップをご参照ください。該当店舗において大会名札をご提示いただくことでサービスを受けることができます。

※東京ベイ幕張ホールの館内 (A01 ~ A11) の講演会場内及び会場前通路) は持ち込み飲食が禁止されております。ご協力をお願いいたします。

各種イベント

参加方法・詳細は大会 HP でご確認ください。

http://www.jpgu.org/meeting_2017/event.html

■20 日(土) アイスブレイカー

PM3 のポスターセッション終了後、18:30 よりポスター会場にてアイスブレイカーを開催します。

ビールやスナックを無料で用意しており、大会参加者皆様ご参加いただけます。

■21 日(日) 基調講演

PM2 に幕張メッセ国際会議場 2F コンベンションホールにて開催します。講演者は梶田 隆章氏と Lucy Jones 氏です。

講演言語は英語です。パブリックセッションのみの参加の方(中高生や一般市民の方など)に限り、事前申込みで同通のレシーバをご用意いたします。(数に限りがあります)

■22 日(月) International Mixer Luncheon

日本地球惑星科学連合の国際化推進の一環として、ランチタイム (12:30 ~ 13:30) にホテルニューオータニ翔の間にて若手の懇談会を開催します。公用語は英語です。とくに今大会では、これまで以上に多くの海外からの参加者が期待されますので、海外からの若手参加者との交流にご興味をお持ちの学生・若手研究者のご参加をお待ちしています。

■23 日(火) 表彰式

18:30 より、東京ベイ幕張ホール A09 ~ A11 にて、2017 年度フェロー贈賞式、第 2 回地球惑星科学振興西田賞授賞式、第 2 回 Taira Prize 受賞者紹介を行います。

表彰式はどなたでもご参加いただけます。ご参加の皆様に乾杯用のスパークリングワインをご用意いたしますので、ぜひ一緒に祝いください。

2017 年度フェロー贈賞式

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです。2017 年度は次の先生方をフェローとして顕彰させていただくこととなりました。

2017 年度日本地球惑星科学連合フェロー (15 名 50 音順)

荒井 章司先生, 石橋 克彦先生, 入船 徹男先生,
Robert Geller 先生, 小西 健二先生, Danny Summers 先生,
島崎 邦彦先生, 武田 弘先生, 鶴田 浩一郎先生,
鳥羽 良明先生, 中島 映至先生, 廣瀬 敬先生,
Bjorn O. Mysen 先生, 松浦 充宏先生, 水越 允治先生

第 2 回地球惑星科学振興西田賞授賞式

この賞は、国際的に評価を得ている優れた 45 歳未満の中堅研究者を表彰するものとして 2014 年に創設いたしました。賞の名称は西田篤弘会員 (連合フェロー) のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します。

第 2 回受賞者 (10 名 50 音順 敬称略)

生駒 大洋, 内田 直希, 海老原 祐輔, 川合 美千代, 高野 淑識,
谷本 浩志, 土屋 卓久, 長沢 真樹子, 宮崎 雄三, 渡邊 真吾

第2回 Taira Prize 受賞者紹介

Taira Prize は JpGU も公式に協力して、2015 年から AGU に新しく設けられた賞であり、深海掘削を通じて科学への著しい貢献をした若手研究者に授賞されます。

第2回受賞者となりました Heiko Palike 氏を、JpGU におきましてもご紹介させていただきます。

■23日(火) 懇親会

表彰式終了後の19:00より、同会場 A09 ~ A11 にて開催します。

フェロー、西田賞受賞者、Taira Prize 受賞者も表彰式に引き続きお招きしております。

参加費：一般 4,320 円(税込) / 学生 1,980 円(税込)

オンライン申込み締切 5月22日(月) 18:00

(会員ログイン画面よりお申し込みいただけます)

※オンライン申込み締切後は当日現金価格となります。懇親会会場にて直接お申し込み・お支払いください。一般 5,000 円(税込)、学生 2,500 円(税込)

地酒バー

通常のドリンクとは別に、賛助会員の「地方都市コンベンション関連団体」、「阿蘇ユネスコジオパーク」さんより地酒の提供があります。この機に各地の名酒をお楽しみください。

大抽選会

出展各社さんからご提供の豪華景品の他、次回大会の無料参加券も当たる、大抽選会を開催します。

■ランチタイムスペシャルレクチャー

5月22日を除く会期中のランチタイムに開催します。

時間：13:00 ~ 13:40

会場：国際会議場 1F 103

ワールドクラスの研究者が研究分野を越えて学生・若手研究者に贈る地球惑星科学の特別講義シリーズです。最もホットなトピックスを、学部生や他分野の院生の方にも分かるようやさしくお話しいたします。

■20日(土) Dr. Shawn McGlynn (Tokyo Institute of Technology)

「Microbial Individuals and their roles in Biogeochemistry」

■21日(日) Dr. Peter van Keken (Carnegie Institution for Science Washington)

「The water cycle in subduction zones」

■23日(火) Dr. William Lau (University of Maryland College Park)

「The Asian Aerosol-Monsoon Climate System: A New Paradigm」

■24日(水) Dr. Ralph Lorenz (Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory)

「Exploring Titan: An Earth-Like Moon」

■25日(木) Dr. Eddie Bernard (Survival Capsule, LLC)

「New Frontier of Tsunami Science - Deep Ocean Observations」



会場入り口にて軽食の販売も行います。メモ台付きのイスをご用意しておりますので、昼食を取りながらお気軽にご聴講ください。

■中高生向け NASA-JAXA ハイパーウォール講演会

ハイパーウォールとは、複数ディスプレイを連結した、まさに壁のような巨大な画面のことをいいます。大迫力の 4 m × 2.5 m の大画面を用いて、NASA と JAXA の衛星観測による最新の科学成果を、科学者が中学生・高校生向けに講演します。第一線で活躍する研究者に、直接質問してみませんか？

各回、予約制になります。hw@jpgu.org まで、お問い合わせください。

5月20日(土) 11:00 ~ 15:00 中学生向け講演会

Open Access E-Journal PEPS



Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)は

JpGUが運営する査読付きオープンアクセスの英文電子ジャーナルで、誰でも無料で閲覧できます

地球惑星科学の研究分野を 広くカバーします

- 宇宙惑星科学
- 大気水圏科学
- 地球人間圏科学
- 固体地球科学
- 地球生命科学
- 横断的分野

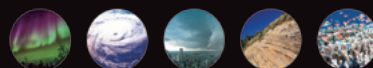
掲載する論文の種類

Review, Research, Data Paper, Methodology等の論文を扱い、Review論文(総論)が3割です

論文掲載料 (APC)

- JpGU会員は200ユーロ
- 非会員は1000ユーロ
- Review, Data Paper, 連合大会優秀論文は JpGUが全額補助します

ご投稿をお待ちしています



http://progearthplanets-ci.org/index_j.html

E-mail:
peps_edit@jpgu.org



5月20日(土) 15:30～18:30 高校生向け講演会
 5月21日(日) 12:00～15:00 高校生向け講演会
 5月24日(水) 15:30～18:30 高校生向け講演会

■おしゃべり広場(bar)場

20日, 22日, 24日の17:15～17:45に, 展示ホール7のミニステージにて, 学生や若手研究者が約5分間, 自由なテーマで「おしゃべり」します。

話題は, 研究のこと・生活のこと・進路の悩み, などです。参加者には記念Tシャツをプレゼントいたします! 聴講も大歓迎なので, ポスターセッションの合間にお立ち寄りください。



■ショートセミナー

参加者や出展者による様々なプレゼンテーションを行います。タイムテーブルはHPで最新の情報をご確認ください。場所は展示ホール7のミニステージです。

■Joint Meeting Special Photo Contest

Joint Meetingを記念して, 参加者の皆様が撮影された地球惑星科学に関する写真の募集を行い, Photo Contestを開催します。応募についての詳細はHPでご確認ください。優秀賞は皆様の投票により選出しますので, ぜひ, コンテスト会場にお越しいただき, 投票にご参加ください。

■エクスカッション等

浅草・皇居をまわる東京半日バスツアー

24日(水) 幕張メッセ発着の, 13:00～17:00のツアーです。

東京の主要な観光場所を巡る半日バスツアー(英語ガイドつき)です。幕張メッセ→東京スカイツリーの車窓観光→浅草での浅草寺, 仲見世通りの観光→国会議事堂周辺の車窓観光→皇居二重橋付近(写真撮影)等です。

JpGU フットサル大会「GEOFUT 17」

21日(日) 19:00～

スポーツを通じた国内・国際交流を目的にフットサル大会を開催します。年齢や国籍の壁を超えて一つの球を蹴り合ひましょう。個人・グループでの参加を広く募ります。

ジオツアー

参加をご希望の方は大会HPからお申し込みください。

http://www.jpгу.org/meeting_2017/geotour.html

- 秩父盆地を巡るバスツアー
5月25日(木)～5月26日(金) 1泊2日
- 下仁田地域(まちなか徒歩散策) 5月26日(金)
- 下仁田地域(荒船風穴) 5月26日(金)
- 2つの海流が出会う銚子の大地の成り立ちと沖合イルカウォッチングの旅 5月26日(金)～27日(土)
- 浅間山北麓ジオパーク「鬼のいたずらを巡る旅」
5月26日(金)～5月27日(土) 1泊2日

一般市民向け公開プログラム 「パブリックセッション」

今年は6つの一般市民向け公開プログラムを開催いたします。参加費は無料です。奮ってご参加ください。

O-01 JJ 若手研究者のためのキャリアパスセミナー 日時: 5月21日(日)

13:45～15:15【口頭発表】会場: 201A

コンピーナ: 宋 苑瑞, 吉川 知里, 鈴木 由希

日本では毎年15,000人程度が大学院博士課程を修了しています。2012年度博士課程修了者を対象とした博士人材追跡調査結果によりますと, 博士課程修了から1年半経過時点でアカデミアに残る割合は6割程度, アカデミアに進んだ場合でも, 7割以上は任期制雇用です。このような状況で, 若手研究者が今後の仕事を見つけていくことに役立てるために, 若手研究者のキャリアパスセミナーを企画しました。

- ▶ 13:45～13:50 Introduction
- ▶ 13:50～14:15 北川 慶子(聖徳大学)
『科研費採択に向けた効果的なアプローチ』
- ▶ 14:15～14:40 小口 高(東京大学空間情報科学研究センター)
『国際誌に適した論文の原稿を書くために』
- ▶ 14:40～15:05 高橋 佑磨(千葉大学)
『科学者のためのデザインの法則』
- ▶ 15:05～15:15 Discussion

O-02 JJ 学校教育における地球惑星科学用語 日時: 5月21日(日)

9:00～12:15【口頭発表】会場: 201A

コンピーナ: 尾方 隆幸, 根本 泰雄, 小林 則彦, 宮嶋 敏

地球惑星科学に関する教育内容は, 日本の高校教育では主に「地理」と「地学」で扱われていますが, 教科間・科目間, また同一の教科内・科目内でも教科書間で用語や解説内容などが異なっている場合があります。加えて, 地球惑星科学の成果が適切に反映されていない内容も散見されます。このパブリックセッションでは, 学校教科書で使用されている用語の検討を中心に, 日本における地球惑星科学と学校教育との関係を考えます。

- ▶ 09:00～09:30 岩田 修二(東京都立大学名誉教授)
『地理教育での用語の問題点』
- ▶ 09:30～10:00 市石 博(国分寺高校)
『生物教育用語の検討 日本生物教育学会の取り組み』
- ▶ 10:00～10:30 渡辺 正(東京理科大学教育支援機構 理数教育研究センター)
『問題のある化学用語』
===== 休憩 =====
- ▶ 10:45～11:15 木村 学(東京海洋大学学術研究院)
『地球惑星・環境科学と高校理科教育』
- ▶ 11:15～11:30 根本 泰雄(桜美林大学自然科学系)
『地学・地理領域での教科書使用用語に関する課題への対応と今後の展望』
- ▶ 11:30～11:45 山本 政一郎(福井県立福井商業高等学校)
『高等学校での地理・地学教科書の記載によって生じる教育現場の問題』
- ▶ 11:45～12:15 尾方 隆幸(琉球大学島嶼防災研究センター)
『学校教育における地球惑星科学用語: 将来の地球惑星科学教育に向けて』

O-03 JJ 地球・惑星科学トップセミナー 日時: 5月21日(日)

10:15～11:25【口頭発表】会場: 国際会議室

コンピーナ: 原 辰彦, 成瀬 元, 道林 克禎, 関根 康人

地球惑星科学分野における最新の成果を, 招待講演者に分かりやす

く紹介していただくアウトリーチセッションです。

- ▶ 10:15 ~ 10:50 鎌田 俊一 (北海道大学 創成研究機構)
『ついに本格始動！ 冥王星の研究』
- ▶ 10:50 ~ 11:25 掛川 武 (東北大学 大学院理学研究科)
『地球が作り地球が育んだ最初の生命』

O-04 JJ キッチン地球科学 一手を動かすことの利点ー 日時：5月20日(土)

13:45 ~ 15:15 【口頭発表】会場：国際会議室
PM2・PM3 【ポスター発表】会場：ポスター会場
コンピーナ：久利 美和, 栗田 敬, 熊谷 一郎

キッチン地球科学は「地球惑星科学を分かり易く伝える道具」, 「研究へのモチベーションを高め視野を広げる道具」としての実験から出発しました。低コストながら十分な解像度/精度のDIY 機器も様々に開発されています。初等・中等教育での地球惑星科学への導入, 地域社会の中での生涯教育の一環, 高等教育での教養教育や分野融合型の問題解決型課題へ向けての「手を動かすこと」の利点に今年は注目します。

- ▶ 13:45 ~ 14:00 熊谷 一郎 (明星大学理工学部)
『キッチン地球科学者のための物性測定：簡易落球法と画像解析を用いたレオロジー測定』
- ▶ 14:00 ~ 14:15 桑野 修 (国立研究開発法人 海洋研究開発機構)
『実習・実演のための寒天ゲルを用いた室内地震探査実験』
- ▶ 14:15 ~ 14:30 菅野 洋 (東京大学地震研究所)
『アウトリーチ活動のための水あめ噴火噴火実験』
- ▶ 14:30 ~ 14:45 宮鍋 慶介 (東北大学大学院情報科学研究科)
『科学技術を用いた防災教育の効果に関する検討』
- ▶ 14:45 ~ 15:00 千葉 達朗 (アジア航測株式会社)
『赤色立体地図模型を使用したアナログモデル実験』
- ▶ 15:00 ~ 15:15 栗田 敬 (東京大学地震研究所)
『キッチン地球科学で使える複雑流体のレオロジーに関するレビュー』

〈ポスター発表〉 4 件

O-05 JJ 高校生によるポスター発表 日時：5月21日(日)

11:30 ~ 12:30 【ポスター概要説明】会場：国際会議室
PM1 【ポスター発表】会場：ポスター会場
コンピーナ：原 辰彦, 道林 克禎, 久利 美和, 山田 耕

高校生が気象, 地震, 地球環境, 地質, 太陽系など地球惑星科学分野で行った学習・研究活動をポスター形式で発表します。地球惑星科学分野の第一線の研究者と同じ会場で発表し, 研究者と議論できるセッションです。優れた発表には表彰も行っています。

〈ポスター発表〉 81 件

O-06 JJ 日本のジオパークーしくじりから見えてくる ジオパークの理想像ー

日時：5月20日(土)
13:45 ~ 17:00 【口頭発表】会場：国際会議室
AM2・PM3 【ポスター発表】会場：ポスター会場
コンピーナ：松原 典孝

2009 年に日本で最初のジオパークが誕生して以来, 各地で様々な取り組みが行われ, 多くの経験や知識がネットワーク間で共有されて

きました。一方で, マニュアルの無いジオパーク活動は試行錯誤の連続であり, 失敗もまた往々にして各地で生じています。本セッションではジオパーク活動の中で直面した諸問題やそれをどう克服したのかについて議論し, ジオパークの理想像を探ります。

- ▶ 13:45 ~ 14:15 先山 徹 (兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科)
『山陰海岸ユネスコ世界ジオパークにおける行政・大学・博物館のかかわり方の変遷』
- ▶ 14:15 ~ 14:45 畑中 健徳 (恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)
『条件付き再認定が地域に与えた効果とその意義についてー恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを例にしてー』
- ▶ 14:45 ~ 15:15 小原 北士 (Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会)
『Mine 秋吉台ジオパークの「認定見送り」が地域にもたらした良い影響』
===== 休憩 =====
- ▶ 15:30 ~ 16:00 石川 智 (下北ジオパーク推進協議会)
『下北ジオパークのチェンジー住民に火をつけた「認定見送り」ー』
- ▶ 16:00 ~ 16:30 臼井 里佳 (伊豆大島ジオパーク推進委員会)
『この島にジオパークは必要か? ジオパーク活動の推進に適した地域なのか?ー伊豆大島ジオパークの歩み』
- ▶ 16:30 ~ 17:00 大野 希一 (島原半島ジオパーク協議会事務局)
『ジオパーク活動に必要な姿勢』

〈ポスター発表〉 36 件

ユ ニオンセッション

ユニオンセッションは, 地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティ全体に共通する課題を全研究者に広く周知し, 議論するためのセッションです。今年は6件のセッションが開催されます。

U-01 EE 地球惑星科学における学術出版の将来 日時：5月23日(火)

09:00 ~ 12:15 【口頭発表】会場：101
PM3 【ポスター発表】会場：ポスター会場
コンピーナ：川幡 穂高, 小田 啓邦

学術出版におけるオープンアクセスの重要性が高まっています。科学研究成果に自由にアクセスすることで, それを利用した科学技術と社会の発展につながると期待されます。また, データへのアクセス, 再利用, 信頼性の確保も重要です。一方で, これらの実現には, 人的資源と資金が必要です。本セッションでは, 学術出版の最先端で技術革新に取り組んでいる方々に, 地球惑星科学の科学出版の将来について講演をいただきます。

【招待講演者】宮入 暢子, Xenia van Edig, Brooks Hanson

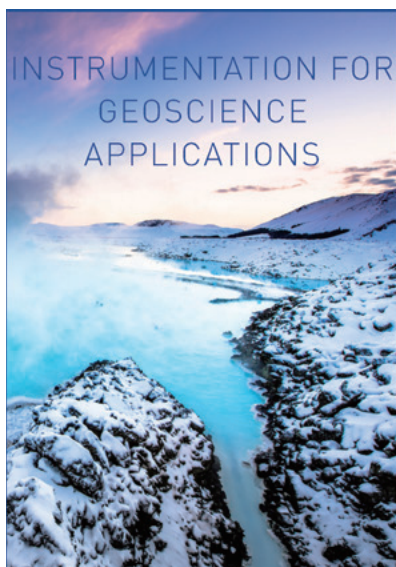
U-02 EE JpGU-AGU great debate: Geoscience and Society 日時：5月23日(火)

13:45 ~ 15:15 【口頭発表】会場：101
コンピーナ：Huixin Liu, 入船 徹男, Denis-Didier Rousseau

気候変動と地震の分野で国際的に著名な専門家をパネリストとして迎え, 自然災害とそのリスク軽減に関連した科学, 応用そして政策についてをテーマにパネルディスカッションを行います。多分野の視点から様々な国における社会的状況を比較する, Joint Meeting にふさわしい, 興味深い内容をお楽しみいただけたと思います。

【モデレータ】木村学

【パネリスト】中島 映至, Thorsten Kiefer, Erwan Monier, 平田 直



MS2/MS3 帯磁率計

- PCと接続してデータの収録ができます。
- プローブとの組み合わせで使用。
- 1cc/10cc サンプル用、コアロギング、表面スキャン用など様々なプローブ。
- PDAとともに使用できます。

Mag-13 磁気センサ

- 測定範囲: 最大 $\pm 1000\mu\text{T}$ 。
- ノイズフロア: 最小 $<4\text{pTrms}@1\text{Hz}$ 。
- 水深5000mまでの環境で使用できる型、アンパッケージドのタイプもあります。
- 地磁気のモニタリング、電磁法探査などに使用できます。

その他、グラディオメーターやヘルムホルツコイルなどを取り扱っております。



Bartington
Instruments

ロックゲート株式会社

www.rockgateco.com
e-mail: info@rockgateco.com
TEL: 03-5615-2311

U-03 EE Discoveries from Subseafloor Sampling and Monitoring using Scientific Ocean Drilling

日時: 5月22日(月)

09:00~12:15【口頭発表】会場: 国際会議室

PM2・PM3【ポスター発表】会場: ポスター会場

コンピーナ: 末広 潔, James A Austin, Keir Becker, 村山 雅史

私たちの身近にある地震火山活動や地球環境変化には、「海惑星」とも言われる地球の海とその下の海洋プレートの動きが元にあります。海洋科学掘削はこの仕組みを調べて未来を予測するために、掘削孔から試料とデータを手に入れ、地球生命科学の分野横断的、総合的な知見を創出しています。このセッションは、「ちきゅう」利用による成果を含めて、社会的関心も高いテーマについて最近の、そして期待される成果をハイライトします。

【招待講演者】Heiko Pálke, Beth Anne Christensen, 稲垣 史生, Patrick Fulton, Laura M Wallace, 木村 学, Demian M Saffer, Mark K Reagan, Ron I Hackney, 道林 克禎, Henry JB Dick

U-04 EJ 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?

日時: 5月25日(木)

10:45~12:15【口頭発表】会場: コンベンションホールB

コンピーナ: 奥村 晃史, 川畑 大作, 吉田 英嗣

本セッションでは、2016年熊本地震や東北北海道風水害をはじめとする大規模な自然災害時における各学協会の活動について情報共有をはかります。そして、単一の学会では対処できない複数の学協会にまたがる環境と災害の問題に対して、各学協会の枠を超えた実質的な連携を促進する上で連合にどのような体制を築いていくべきか、また防災学術連携体との連携の展開について議論します。

【招待講演者】田中 恵信, 吾妻 崇, 奥村 晃史

U-05 EJ Innovative research at the intersection of geoscience and health science

日時: 5月21日(日)

10:45~12:15【口頭発表】会場: 101

コンピーナ: Christine McEntee, 春日 文子, Geoffrey S Plumlee

本セッションは「地球科学と健康科学によるイノベティブな共同研究」です。人間の健康には、衣食住といった生活習慣、微生物からヒトを含む生物、人工的に作られた化学物質から自然を構成する化学物質、そして地球規模の気象や災害など、様々なスケールの環境要因が影響します。その影響を総合的に理解し、疾病を予防するとともに健康を増進するためには、地球科学から健康科学に至る多くの科学分野が協力することが重要です。AGUとJpGUでは初めて「健康」に焦点を当てたセッションを共同企画しました。

U-06 JJ 地球惑星科学の進むべき道 -7: 防衛装備庁安全保障技術研究制度

日時: 5月20日(土)

13:45~15:15【口頭発表】会場: 103

コンピーナ: 大久保 修平, 川幡 穂高, 藤井 良一, 田近 英一

日本学術会議による、学術の大型研究計画(マスタープラン2017)は、2016年2~3月に





Stallard Scientific Editing
your trusted partner in
English-language excellence

地球科学系の英文校正是、スタラード・サイエンティフィック社のアーロン・スタラード博士(構造地質学)にお任せください。貴方の学術論文をネイティブレベルの完璧な英語になるまで校正します。

- 日本円建てによるお見積り、お支払いをお取り扱いしております。
- オンラインでクレジット払い、または銀行振込(校費・科研費払い)にも対応。

www.stallardediting.com

公募見込です。本セッションでは、応募予定の大型研究計画について講演していただき、セッション聴講者一般からのコメントを地球惑星科学委員会として集約します。その結果は、大型研究計画（とくに重点大型研究）への推薦に参照することとし、地球惑星科学分野として何を推進すべきかについて共通認識を得ることを目指します。

【招待講演者】藤井 良一、小森田 秋夫、花輪 公雄、篠崎 資志、西山 忠男、大久保 修平

各種展示

期間：5月20日(土) 10:00～5月25日(木) 14:00

内容：大学・研究所・研究団体・企業・出版社などによる最新プロジェクト等の公開・研究発表・情報交換交流の場です。関係書籍の販売もおこなっております。ぜひお立ち寄りください。【 】内はブース番号

▼一般展示 場所：国際展示場ホール7

【A01】宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所／【A02】宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター／【A03】国立研究開発法人 情報通信研究機構／【A04-A05】地球掘削科学／高知コアセンター／【A06】データ統合・解析システム(DIAS)／Japan GEO／【A12-A14】京都大学地球惑星科学連合／【A15】国立研究開発法人防災科学技術研究所／【A16】国立環境研究所 地球環境研究センター／【A17】iRIC研究会／【A18】ジャスコインタナショナル株式会社／【A20】リトルリバーリサーチ&デザイン／【A21】測位衛星技術株式会社／【A22】株式会社計測技研／【A23】国立天文台テリ観測所（アルマ望遠鏡）／【A24】国立天文台 TMT 推進室／【A25】応用地質株式会社／【A26】株式会社鶴見精機／【A27】Exelis VIS 株式会社／【A28】スリーエス・オーシャンネットワーク有限公司／【A29】株式会社 RS ダイナミックス・ジャパン & 4D ジオテック合同会社／【A30】国立研究開発法人土木研究所／寒地土木研究所／【A31】名古屋大学宇宙地球環境研究所／【A32】CODAR Ocean Sensors／【A33】東京大学 海洋アライアンス／【A34】株式会社パレオ・ラボ／【A35】東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻／【A36】東京大学地震研究所／【A37】石油資源開発／地球科学総合研究所／【A38】次世代海洋資源調査技術研究組合／【A39】地学／地理オリンピック／【A40】大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所／【A41】東京大学 大気海洋研究所／【A42】アジア航測株式会社／【A43-A44】株式会社ジオシス／【A45】白山工業株式会社／【A46】三洋貿易株式会社／【A47】(国研)産業技術総合研究所地質調査総合センター／【A48】愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター／【A49】新学術領域研究 核-マントルの相互作用と共進化／【A50】株式会社マイクロサポート／【A51】東北大学 環境・地球科学国際共同大学院／グローバル安全学トップリーダー育成プログラム／【A52】太陽観測衛星「ひので」プロジェクト／【A53】Beta Analytic／【A54】パシコ貿易株式会社／【A55】東京地学協会／【A56】株式会社ニューテック／【A57】Earth, Planets and Space／【A58】(株)東京測振／【A59】オックスフォード・インストゥルメンツ株式会社／【A60】京都大学大学院 工学研究科 応用地球物理学分野／【A61】安井器械株式会社／【A62】日本 CCS 調査株式会社／【A63】国分寺市／【A64,A67】(株)イーエムエス／【A66】ACS Publications／【A70】Nanometrics／【A72】JFE アドバンテック株式会社 Rockland Scientific International, Inc. (RSI)／【A73】戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)次世代海洋資源調査技術(海のジパング計画)／【A74-A76】国立研究開発法人海洋研究開発機構／【A77】ケイエルブイ株式会社／【A79】東京工業大学地球生命研究所 [Earth-Life Science Institute (ELSI), Tokyo Tech]／【A80】京都大学大学院理学研究科 野島プロジェクト／【A81】メイジテクノ株式会社／【A83】バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社／【A84】IUGONET「超高層大気長期変動の全球地上ネットワーク観測・研究」／【A85】北極域研究推進プロジェクト(ArCS)

▼Special Exhibition 場所：国際展示場ホール7

JpGU & Friends (JpGU/AGU/AOGS/EGU)
NASA (NASA-JAXA Hyperwall presentation)

▼大学展示 場所：国際会議場 2F

【Univ01】東京大学空間情報科学研究センター／【Univ02】大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻／【Univ03】首都大学東京 都市環境科学研究所 地理環境科学域／【Univ04】九州大学地球惑星科学部門／【Univ05】北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星科学関連講座／【Univ07】名古屋大学生物地球化学グループ／【Univ08】名古屋大学大学院 環境学研究科 地球環境科学専攻／【Univ09】学校法人加計学園千葉科学大学／【Univ10】名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」／【Univ11】立正大学大学院地球環境科学研究科／【Univ12】会津大学

▼書籍・関連商品展示 場所：国際会議場 2F

【Pub01】テラパブ／【Pub02】共立出版株式会社／【Pub03】京都大学学術出版会／【Pub04】包み屋(くるみや)／【Pub06】英文校正エナゴ／論文翻訳ユレイタス／【Pub07】株式会社ニホン・ミック／【Pub08】近未来社／【Pub09】株式会社 朝倉書店／【Pub10】一般財団法人 東京大学出版会／【Pub11】株式会社 ELSS／【Pub12】株式会社キウイラボ／【Pub13-14】MDPI (Multidisciplinary Digital Publishing Institute)／【Pub16-17】Frontiers／【Pub18-19】エルゼビア・ジャパン株式会社／【Pub20】ホリミネルロジ株式会社／【Pub22】株式会社 古今書院／【Pub23】地学団体研究会／【Pub24-25】株式会社ニチカ／【Pub26-27】シュプリング・ネイチャー／【Pub28-29】ケンブリッジ大学出版株式会社／【Pub30】(株)ニュートリノ／【Pub31-32】ワイリー・ジャパン株式会社／【Pub33】ジオガシ旅行団

▼学協会デスク 場所：国際会議場 1F

【Soc01-02】日本海洋学会／【Soc03】石油技術協会／【Soc04】一般社団法人日本地質学会／【Soc05-06】日本地球化学会／【Soc07】公益社団法人 物理探査学会／【Soc08】特定非営利活動法人日本火山学会／【Soc09】公益社団法人日本地震学会／【Soc10】日本古生物学会／【Soc11】日本測地学会／【Soc12】一般社団法人 日本鉱物科学会／【Soc13】地球電磁気・地球惑星圏学会

▼Pamphlet Stand 場所：国際会議場 1F

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会／金沢大学 地球コース／ローグウェア ソフトウェア ジャパン株式会社／日本リモートセンシング学会／株式会社 シー・ティー アンド シー／Copernicus.org／Institute of Tibetan Plateau Research, Chinese Academy of Sciences／Geophysical Journal International／シュプリング・ネイチャー

株式会社パレオ・ラボ

パレオ・ラボでは遺跡出土遺物および堆積物の自然科学分析を行っています。現場での産出状況を重視し、沖積層ボーリングコア採取、14C年代測定、テフラ同定、微化石分析、動・植物遺体同定まで、一貫して自社で行います。

お問い合わせ e-mail: info@paleolabo.jp
ホームページ http://www.paleolabo.jp

Paleo Labo

〈口頭発表〉 赤字／パブリックセッション（一般公開プログラム）：無料 緑字／ユニオンセッション ※色分けはポスター発表開催日による

会 場 (定員)	5月20日(土)				5月21日(日)				5月22日(月)					
	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2		
	9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00	9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00	9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00		
1F	101 (126)	A-AS12 : [EE] スパコンによる大気科学		A-AS06 : [EE] 台風		P-PS08 : [JJ] 月の科学と探査		U-05 : [EJ] Geoscience and health science	S-SS14 : [JJ] 地震予知・予測		A-AS07 : [EE] aerosol, climate, and air quality		S-CG64 : [EE] Morphodynamics and Genetic Stratigraphy	
	102 (70)	P-PS08 : [JJ] 月の科学と探査			M-GI29 : [EJ] データ駆動 地球惑星科学	P-CG24 : [EJ] 惑星大気圏・電磁圏		S-IT23 : [EE] Mantle structure and dynamics		S-MP40 : [EE] Supercontinents and Crustal Evolution		S-MP41 : [EE] Subduction Processes		
	103 (160)	M-IS26 : [JJ] 水惑星学		U-06 : [JJ] 安全保障技術研究制度		P-PS02 : [EE] Small Bodies				P-PS02 : [EE] Small Bodies		P-PS03 : [EE] Regolith Science		
	104 (160)	A-CG53 : [JJ] 気候変動適応		A-CG46 : [EE] 衛星による地球環境観測						M-GI32 : [JJ] 計算惑星		P-PS09 : [JJ] 宇宙物質		
	105 (160)	P-EM13 : [EE] Exploring space plasma process with MMS		P-EM14 : [EE] Magnetosphere-Ionosphere						H-GM04 : [JJ] 地形		H-GM03 : [EE] Geomorphology	H-TT22 : [EE] Non destructive techniques	
	106 (100)	H-TT25 : [JJ] 地理情報システムと地図		H-TT20 : [EE] GIS and Cartography		B-PT04 : [EJ] 化学合成 生態系の進化	M-IS17 : [JJ] 海底マンガ ン鉱床の科学	S-CG75 : [JJ] 地殻流体と 地殻変動		H-TT24 : [JJ] 環境リモート センシング	A-CG46 : [EE] 衛星による 地球環境観測	H-TT21 : [EE] ERS	H-GG01 : [EE] Mapping phenology with remote sensing	
2F	国際会議室 (456)	A-CG46 : [EE] 衛星による 地球環境観測		O-06 : [JJ] 日本のジオパーク		O-03 : [JJ] 地球惑星 トップセミナー	O-05 : [JJ] 高校生発表 セッション		U-03 : [EE] Scientific Ocean Drilling		M-IS23 : [JJ] 古気候・古海洋変動			
	コンベンション ホールA (400)		P-PS05 : [EJ] Mars science and future missions	O-04 : [JJ] キッチン地球科学		G-02 : [JJ] 総合的防災教育				S-VC47 : [JJ] 活動的火山		P-PS10 : [JJ] 太陽系惑星物質		
	コンベンション ホールB (400)	P-PS06 : [EJ] あかつきの金星科学成果			P-PS05 : [EJ] Mars science and future missions				基調講演		S-SS10 : [EJ] 地殻変動		S-IT22 : [EE] Core-mantle coevolution in the Earth and planets	
	201A (126)	M-IS03 : [EE] Future Earth		H-CG29 : [EE] Human Dimensions	P-EM13 : [EE] Exploring space plasma process with MMS		O-02 : [JJ] 学校教育における用語		O-01 : [JJ] 若手キャリア パスセミナー		M-GI30 : [JJ] 情報地球惑星科学		A-HW34 : [EJ] 水循環・水環境	M-AG33 : [EE] Surface Reflectance and agriculture
	201B (123)	B-PT06 : [JJ] 地球生命史		B-PT03 : [EE] 生物鉱化作用と環境指標		A-HW32 : [EE] Watershed Sciences					B-CG07 : [EE] 生命圏フロンティア	B-CG10 : [JJ] 生命-水-鉱物-大気	A-AS07 : [EE] aerosol, climate, and air quality	
	202 (52)		M-SD36 : [JJ] 宇宙食と宇宙農業		H-CG34 : [JJ] 閉鎖生態系と 生物システム		M-IS07 : [EE] Conservation of geosites and heritages	M-GI31 : [JJ] ソーシャルメディア			H-RE18 : [JJ] 再生可能エネルギー	S-IT31 : [EE] Mantle transition zone and beyond	M-IS24 : [JJ] 海底～海面の 貫通観測	
3F	301A (85)	G-04 : [JJ] 小・中・高・大学の教育		M-IS01 : [EE] Changes in Northern Eurasia		A-AS03 : [EE] 海大陸研究強化年-YMC		A-CG44 : [EE] Asian GEWEX		A-HW34 : [EJ] 水循環・水環境		A-GE40 : [EE] 環境と持続的発展		
	301B (122)	A-AS06 : [EE] 台風	M-ZZ41 : [EJ] リスクコミュニ ケーション	H-SC08 : [JJ] 地球温暖化防止 CCUS		S-EM18 : [EE] Geo-, Paleo-, and Rock-magnetism		S-MP44 : [JJ] 鉱物の物理化学		M-GI28 : [EE] Data assimilation		A-AS02 : [EE] Cloud-Resolving Models		
	302 (154)	A-CG45 : [EE] 熱帯の大気海洋相互作用		A-CG43 : [EE] 中緯度大気海洋相互作用		A-OS15 : [EE] 海洋混合に関わる諸問題		A-OS19 : [EJ] 海洋モデリングと OMIP		A-OS22 : [JJ] 海洋物理学		A-OS24 : [JJ] A-OS16 : [EE] 環境変化に 関する海洋研究		
	303 (154)	A-OS23 : [JJ] 海洋化学	A-OS30 : [JJ] 沿岸の物質循環と 生物応答	A-OS31 : [JJ] 海洋学と古海洋学	A-OS28 : [JJ] 生物海洋学	A-OS27 : [JJ] インド洋の海洋科学	A-OS14 : [EE] Marine ecosystem & biogeochemical cycle	A-OS26 : [JJ] 海洋生物多様性変動		A-OS25 : [JJ] 沿岸・近海海域の 温暖化応答	A-OS16 : [EE] 環境変化に 関する海洋研究		A-OS14 : [EE] Marine ecosystem & biogeochemical cycle	
	304 (134)	A-HW35 : [EJ] 同位体水文学 2017		A-HW36 : [JJ] 都市域の 水環境と地質	A-HW33 : [EE] Human & Nature, and environment solution	A-AS01 : [EE] 3D Cloud and Radiative Transfer Modeling		A-CG49 : [JJ] 航空機観測		A-OS21 : [JJ] 陸域と海洋の水循環	M-IS18 : [JJ] 大気電気学		M-IS05 : [EE] Thunderstorms and lightning	
東京ベイ幕張	A01 (126)	M-GI29 : [EJ] データ駆動地球惑星科学		M-AG35 : [EJ] 海洋地球インフォ		M-IS14 : [JJ] ジオパーク	H-CG33 : [JJ] 原発の基準地震動		M-IS14 : [JJ] ジオパーク		P-EM12 : [EE] Space Weather			
	A02 (126)	S-IT25 : [EE] The asthenosphere and plate tectonics		S-TT55 : [EE] RAEG2017		H-CG37 : [JJ] 活断層と地震防災		H-SC07 : [EJ] 人間環境と災害リスク		M-IS16 : [JJ] ガスハイドレート		S-SS08 : [EE] Earthquake Modeling and Simulation		
	A03 (126)	S-EM20 : [JJ] 地磁気古地磁気岩石磁気			G-03 : [JJ] アウトリーチ	S-MP44 : [JJ] 鉱物の物理化学	G-03 : [JJ] アウトリーチ				S-GC52 : [EE] Volatiles in the Earth		A-CC38 : [JJ] 雪氷学	
	A04 (126)	S-VC50 : [JJ] 火山・火成活動			S-GL34 : [EJ] 泥火山		S-TT61 : [JJ] HPCと固体 地球科学	S-TT59 : [JJ] 地震観測・ 処理システム		S-CG74 : [JJ] レオロジーと破壊・摩擦		S-SS12 : [EJ] 活断層と古地震		
	A05 (126)	S-IT22 : [EE] Core-mantle coevolution in the Earth and planets								S-IT23 : [EE] Mantle structure and dynamics		M-TT39 : [JJ] 低周波が繋ぐ 多圏融合物理		
	A07 (126)	S-CG72 : [EJ] 地震動・地殻変動即時解析			S-EM18 : [EE] Geo-, Paleo-, and Rock-magnetism	M-ZZ42 : [JJ] 地球惑星科学の科学論		S-IT21 : [EE] ブルームは 存在するか?		S-SS08 : [EE] Earthquake Modeling and Simulation		M-ZZ40 : [EE] groundwater for human security		H-CG35 : [JJ] 超学際研究
	A08 (126)	S-IT26 : [EE] Fluids in subduction zones		S-IT28 : [EE] Seismic attenuation	A-HW32 : [EE] Watershed Sciences	S-VC51 : [JJ] 伊豆大島噴火30周年	S-VC49 : [JJ] 火山防災		S-EM19 : [JJ] 電気伝導度 地殻活動電磁気		S-CG73 : [JJ] 岩石・鉱物・資源			
	A09 (126)		S-SS17 : [JJ] 地震物理・断層レオロジー		H-CG37 : [JJ] 活断層と 地震防災	S-SS17 : [JJ] 地震物理・断層レオロジー		A-OS15 : [EE] 海洋混合に 関する諸問題		S-GL36 : [JJ] 地域地質と構造発達史		S-IT30 : [EE] Discontinuities within lithosphere		
	A10 (126)								P-EM17 : [EE] Ionosphere Monitoring and Forecast					
	A11 (126)								M-IS05 : [EE] Thunderstorms and lightning		M-IS23 : [JJ] 古気候・ 古海洋変動			

〈ポスター発表〉 幕張メッセ国際展示場 7 ホール 青字／ポスター発表のみ (A-TT41: Operational METOC Forecasting, H-DS15: 海底地すべり, H-CG36: 海岸低湿地, S-GL38: L-M更新統境界GSSP, S-GC53: 固体地感化, S-CG68: Seismogeodesy for Hazard Early Warning, B-BG02: 微生物生態, G-01: Ocean Education in tomorrow classrooms)

コアタイム	5月20日(土)	5月21日(日)	5月22日(月)
AM2 10:45~12:15	O-06 / P-EM14 / A-AS06 / A-CG43 / A-CG46 / H-SC08 / H-TT20 / S-TT55 / B-PT03 / M-IS01 / M-AG35	A-OS19 / A-OS26 / A-CG44 / A-CG49 / H-SC07 / S-SS14 / S-IT21 / S-MP44 / S-TT59 / M-IS14 / M-GI31	P-PS09 / A-AS02 / A-OS14 / A-CC38 / A-GE40 / S-SS08 / S-MP41 / S-CG64 / S-CG73 / M-IS05
PM1 13:45~15:15	P-PS05 / P-EM13 / A-OS28 / A-HW32 / A-HW33 / H-CG34 / S-GL34 / G-02 / G-03 / M-GI29	O-05* / P-CG24 / A-AS01 / A-AS03 / A-OS27 / H-CG33 / H-CG37 / S-SS17 / S-EM18 / S-IT22 / S-VC51 / S-TT61 / B-PT04 / G-01 / M-IS07 / M-IS17 / M-ZZ42	P-PS10 / A-AS07 / A-OS16 / H-GG01 / H-TT22 / H-CG35 / S-IT30 / M-IS24 / M-AG33 / M-TT39
PM2 15:30~17:00	O-04 / P-PS06 / P-PS08 / A-AS12 / A-OS23 / A-OS30 / A-OS31 / A-HW35 / A-HW36 / A-CG45 / A-CG53 / H-TT25 / H-CG29 / H-CG36 / S-EM20 / S-IT25 / S-IT26 / S-IT28 / S-VC49 / S-VC50 / S-CG68 / S-CG72 / B-PT06 / G-04 / M-IS03 / M-IS26 / M-SD36 / M-ZZ41		U-03 / P-PS02 / P-EM17 / A-OS21 / A-OS22 / A-OS24 / A-OS25 / A-HW34 / H-GM03 / H-GM04 / H-RE18 / H-TT21 / H-TT24 / S-SS10 / S-EM19 / S-IT23 / S-IT31 / S-GL36 / S-GL38 / S-MP40 / S-VC47 / S-CG52 / S-CG74 / B-CG07 / B-CG10 / M-IS16 / M-IS18 / M-GI28 / M-GI30 / M-GI32 / M-ZZ40
PM3 17:15~18:30	O-04 / O-06 / P-PS05 / P-PS06 / P-PS08 / P-EM13 / P-EM14 / A-AS06 / A-AS12 / A-OS23 / A-OS28 / A-OS30 / A-OS31 / A-HW32 / A-HW33 / A-HW35 / A-HW36 / A-CG43 / A-CG45 / A-CG46 / A-CG53 / H-SC08 / H-TT20 / H-TT25 / H-CG29 / H-CG34 / H-CG36 / S-EM20 / S-IT25 / S-IT26 / S-IT28 / S-GL34 / S-VC49 / S-VC50 / S-TT55 / S-CG68 / S-CG72 / B-PT03 / B-PT06 / G-02 / G-03 / G-04 / M-IS01 / M-IS03 / M-IS26 / M-GI29 / M-AG35 / M-SD36 / M-ZZ41	P-CG24 / A-AS01 / A-AS03 / A-OS15* / A-OS19 / A-OS26 / A-OS27 / A-CG44 / A-CG49 / H-SC07 / H-CG33 / H-CG37 / S-SS14 / S-SS17 / S-EM18 / S-IT21 / S-IT22 / S-MP44 / S-VC51 / S-TT59 / S-TT61 / S-CG75 / B-PT04 / G-01 / M-IS07 / M-IS14 / M-IS17 / M-GI31 / M-ZZ42	U-03 / P-PS02 / P-PS09 / P-PS10 / P-EM17 / A-AS02 / A-AS07 / A-OS14 / A-OS16 / A-OS21 / A-OS22 / A-OS24 / A-OS25 / A-HW34 / A-CC38 / A-GE40 / H-GG01 / H-GM03 / H-GM04 / H-RE18 / H-TT21 / H-TT22 / H-TT24 / H-CG35 / S-SS08 / S-SS10 / S-EM19 / S-IT23 / S-IT30 / S-IT31 / S-GL36 / S-GL38 / S-MP40 / S-MP41 / S-VC47 / S-CG52 / S-CG64 / S-CG73 / S-CG74 / B-CG07 / B-CG10 / M-IS05 / M-IS16 / M-IS18 / M-IS24 / M-GI28 / M-GI30 / M-GI32 / M-AG33 / M-TT39 / M-ZZ40

5月23日(火)				5月24日(水)				5月25日(木)				会 場 (定員)	
AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2		
9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00	9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00	9:00~10:30	10:45~12:15	13:45~15:15	15:30~17:00		
U-01 : [EE] 地球惑星科学の学術出版	U-02 : [EE] JpGU-AGU great debate			S-SS07 : [EE] 地表面地震断層評価	S-GC54 : [JJ] 地球化学の最前線			S-GL37 : [JJ] 年代学・同位体				101 (126)	1F
P-PS01 : [EE] Outer Solar System Exploration				M-IS04 : [EE] Pre-earthquake processes	H-DS17 : [JJ] 地質災害			S-VC45 : [EE] Wet volcanology	S-GD03 : [EJ] 測地学一般			102 (70)	
P-PS03 : [EE] Regolith Science	H-TT19 : [EE] HD Topography and Geophysics			S-IT32 : [EJ] Tectonophysics of the Tibetan plateau	S-SS16 : [JJ] 地殻構造			M-IS08 : [EE] Phanerozoic history of E Asia	M-IS12 : [JJ] 地震・火山電磁気現象			103 (160)	
S-MP42 : [EJ] 変形岩・変成岩	S-GL33 : [EE] Geodynamics of convergent margins			S-CG63 : [EE] Crust-Mantle Connections	S-VC46 : [EE] [EE] 火山分岐 現象の理解	H-DS13 : [EE] Natural Hazards and Impacts						104 (160)	
P-PS10 : [JJ] 太陽系惑星物質				H-DS09 : [EE] Landslides	H-TT26 : [JJ] 浅層物理探査			H-DS12 : [EE] Tsunami disaster mitigation	H-DS11 : [EE] IUGS Geohazards			105 (160)	
H-TT23 : [JJ] 環境トレーサビリティー	H-DS10 : [EE] Natural hazards impacts on technosphere	H-CG28 : [EE] デルタ(三角州)	M-IS15 : [JJ] 地球流体力学		H-CG30 : [EJ] 堆積・侵食と地球表層環境							106 (100)	
M-IS23 : [JJ] 古気候・古海洋変動		S-SS15 : [JJ] 震動・地震災害		S-CG70 : [EJ] 震源域近傍強震動	M-IS22 : [JJ] 地球掘削科学							国際会議室 (456)	2F
S-VC47 : [JJ] 活動的火山				H-DS16 : [JJ] 津波とその予測	S-SS07 : [EE] 地表面地震断層評価	M-AG34 : [EJ] 原発事故放射能の環境動態						コンベンション ホールA (400)	
S-CG62 : [EE] 変動帯ダイナミクス				S-CG62 : [EE] 変動帯ダイナミクス				U-04 : [EJ] 環境災害				コンベンション ホールB (400)	
M-IS09 : [EJ] 津波堆積物		S-TT58 : [EJ] 空中地球計測	S-TT57 : [EJ] 合成開口レーダー		S-CG71 : [EJ] 海洋底地球科学							201A (126)	
B-CG08 : [EE] 深宇宙・ 深海生命探査	B-CG09 : [EJ] 顕生代生物多様性			B-PT05 : [EJ] 地球史解読	B-AO01 : [EE] Astrobiology			M-IS20 : [JJ] 遠洋域の進化				201B (123)	
M-TT37 : [EE] Cryoseismology	S-GL33 : [EE] Geodynamics of convergent margins	S-MP43 : [JJ] 島弧地殻エネルギー		H-SC06 : [EE] 景観評価の国際比較	S-GD01 : [EE] Global Geodetic Observing System	S-TT60 : [JJ] ルミネッセンス・ ESR						202 (52)	
	A-GE39 : [EE] 物質移動と環境評価	A-TT42 : [JJ] 飛行艇		A-CG51 : [JJ] 水循環と陸海相互作用	A-CG50 : [JJ] 浅海域・汽水域の物質循環			A-AS05 : [EE] Regional transport of air pollutants				301A (85)	3F
A-AS04 : [EE] Global Carbon Observation and Analysis				A-AS11 : [JJ] 大気化学	H-DS14 : [EE] Disaster Research for Sendai Framework			M-IS13 : [JJ] 山岳地域の自然環境変動				301B (122)	
A-OS29 : [EJ] 海洋力学全般	A-OS13 : [EE] 陸域海洋相互作用			M-IS19 : [JJ] 生物地球化学				S-CG65 : [EE] 混濁流	S-GL35 : [EJ] 断層の年代と 熱及び流体			302 (154)	
A-OS18 : [EJ] Integrative climate impacts on fisheries	A-OS20 : [EJ] Healthy ocean and sustainable use	M-TT38 : [EE] GPS/GNSSの新展開		A-OS17 : [EE] Climate variations in the Atlantic	A-AS09 : [EE] 成層圏-対流圏相互作用			A-CG47 : [EJ] 陸域生態系の物質循環				303 (154)	
	H-CG32 : [JJ] 原子力と地球惑星科学	H-CG31 : [EJ] 放射性物質汚染 地域の復興		A-CG48 : [EJ] 北極域の科学	M-IS21 : [JJ] 南北両極の 大型研究			A-CG52 : [JJ] 海洋-大気間生物地球化学				304 (134)	
P-EM12 : [EE] Space Weather				P-EM11 : [EE] MTI Coupling	P-EM21 : [JJ] 宇宙プラズマ			P-EM18 : [EE] Origin of Earth-affecting CMEs				A01 (126)	東京ベイ幕張
A-AS10 : [EE] Inter/intra- hemispheric coupling				P-EM16 : [EE] Physics of Inner Magnetosphere Coupling	P-EM20 : [EJ] Heliosphere and Interplanetary Space	M-IS10 : [EJ] 南大洋・南極氷床		P-EM22 : [JJ] 大気圏・電離圏				A02 (126)	
S-IT29 : [EE] East Asia geodynamics	S-IT27 : [EE] Carbon in Planetary Interiors			A-AS09 : [EE] 成層圏-対流圏 相互作用	M-IS11 : [EJ] 結晶成長・溶解	P-CG23 : [EE] Space science missions and instruments		P-EM15 : [EE] 太陽地球系結合過程				A03 (126)	
S-SS12 : [EJ] 活断層と古地震				P-PS04 : [EJ] アルマで惑星科学		P-PS07 : [JJ] 惑星科学						A04 (126)	
S-CG67 : [EE] 海溝海側で生じる過程	H-CG27 : [EE] 水-人間系システム			S-GD02 : [EJ] 重力・ジオイド	S-SS05 : [EE] Earthquake statistics and beyond	S-VC48 : [JJ] 火山の熱水系	S-SS06 : [EE] Source and Seismicity Parameter Studies					A05 (126)	
A-CC37 : [EJ] アイスコア	S-CG66 : [EE] Intralab earthquakes	A-AS08 : [EE] 雲降水過程 の統合的理解			S-SS09 : [EE] S-CG70 : [EJ] Rethinking PSHA 震源域近傍強震動	S-RD39 : [JJ] 資源地質学						A07 (126)	
M-GI27 : [EE] Challenges of Open Science	A-CC37 : [EJ] アイスコア			M-IS10 : [EJ] 南大洋・南極氷床	M-IS15 : [JJ] 地球流体力学	S-CG69 : [EE] Near surface fault investigation		S-SS11 : [EJ] 地震波伝播				A08 (126)	
A-AS08 : [EE] 雲降水過程の統合的理解	M-IS06 : [EE] アジア・モンスーンの進化			M-IS02 : [EE] 火山噴煙・積乱雲	S-IT24 : [EE] 地殻応力研究			S-SS13 : [JJ] 地震活動				A09 (126)	
	A-AS11 : [JJ] 大気化学	A-AS09 : [EE] 成層圏-対流圏 相互作用		S-SS04 : [EE] Subduction zone dynamics				S-SS04 : [EE] Subduction zone dynamics				A10 (126)	
												A11 (126)	

5月23日(火)	5月24日(水)	5月25日(木)	コアタイム
A-OS13/A-CC37/H-TT19/H-CG27/S-MP43/M-IS06	P-CG23/A-AS09/A-CG50/H-DS17/H-TT26/H-CG30/S-SS05/S-SS16/S-IT24/S-GC54/S-CG70/B-AO01	H-DS11/S-GD03/S-GL35/S-VC48/M-IS12	AM2 10:45~12:15
A-AS08/A-TT42/H-DS10/H-CG31/S-GL33	P-EM16/P-EM22/H-DS14/S-SS07/S-VC461/S-TT60/S-CG69/S-CG71/M-IS10/M-IS21/M-IS22	P-PS07/P-EM21/A-AS05/A-CG52/H-QR05/H-DS12/H-DS13/S-SS13/S-GL37/S-RD39/S-VC45/S-VC45/S-GC53/S-CG65/M-IS08/M-IS13/M-IS20	PM1 13:45~15:15
P-PS01/P-PS03/P-EM12/A-AS04/A-AS10/A-OS18/A-OS20/A-OS29/A-GE39/H-DS15/H-TT23/H-CG32/S-SS12/S-IT27/S-IT29/S-MP42/S-CG62/S-CG66/S-GL33/S-MP42/S-MP43/S-CG62/S-CG66/S-CG67/B-CG08/B-CG09/M-IS06/M-IS09/M-IS23/M-GI27/M-TT37	P-PS04/P-EM11/P-EM18/P-EM20/A-AS11/A-OS17/A-TT41/A-CG48/A-CG51/H-SC06/H-DS09/H-DS16/H-CG28/S-GD01/S-GD02/S-SS04/S-SS06/S-SS09/S-SS11/S-SS15/S-IT32/S-TT57/S-TT58/S-CG63/B-BG02/B-PT05/M-IS02/M-IS04/M-IS11/M-IS15/M-IS19/M-AG34	P-PS07/P-EM15*/P-EM21/A-AS05/A-CG47*/A-CG52/H-QR05/H-DS11/H-DS12/H-DS13/S-GD03/S-SS13/S-GL35/S-GL37/S-RD39/S-VC45/S-VC48/S-GC53/S-CG65/M-IS08/M-IS12/M-IS13/M-IS20 *PM2のみ	PM2 15:30~17:00
U-01*/P-PS01/P-PS03/P-EM12/A-AS04/A-AS08/A-AS10/A-OS13/A-OS18/A-OS20/A-OS29/A-CC37/A-GE39/A-TT42/H-DS10/H-DS15/H-TT19/H-TT23/H-CG27/H-CG31/H-CG32/S-SS12/S-IT27/S-IT29/S-MP42/S-CG62/S-CG66/S-GL33/S-MP42/S-MP43/S-CG62/S-CG66/S-CG67/B-CG08/B-CG09/M-IS06/M-IS09/M-IS23/M-GI27/M-TT37/M-TT38*	P-PS04/P-EM11/P-EM18/P-EM20/P-EM22/P-CG23/A-AS09/A-AS11/A-OS17/A-TT41/A-CG48/A-CG51/H-SC06/H-DS09/H-DS14/H-DS16/H-DS17/H-TT26/H-CG28/H-CG30/S-GD01/S-GD02/S-SS04/S-SS06/S-SS09/S-SS11/S-SS15/S-IT24/S-IT32/S-VC46/S-CG54/S-TT57/S-TT58/S-TT60/S-CG63/S-CG69/S-CG70/S-CG71/B-AO01/B-BG02/B-PT05/M-IS02/M-IS04/M-IS10/M-IS11/M-IS15/M-IS19/M-IS21/M-IS22/M-AG34	*5/25のPM2コアタイムは16:45まで	PM3 17:15~18:30

JpGU-AGU Joint Meeting 2017 セッション一覧表

AM1 09:00-10:30 / AM2 10:45-12:15 / PM1 13:45-15:15 / PM2 15:30-17:00 / PM3 17:15-18:30

ポスターコア会場：幕張メッセ国際展示場ホール7

記号:区分 セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコアタイム
U: ユニオン		
U-01: [EE] 地球惑星科学における学術出版の将来 ([EE] 地球惑星科学の学術出版)	23日 AM1・AM2 / 101	23日 PM3
U-02: [EE] JpGU-AGU great debate: Geoscience and Society ([EE] JpGU-AGU great debate)	23日 PM1 / 101	
U-03: [EE] Discoveries from Subseafloor Sampling and Monitoring using Scientific Ocean Drilling ([EE] Scientific Ocean Drilling)	22日 AM1・AM2 / 国際会議室	22日 PM2, PM3
U-04: [EJ] 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか? ([EJ] 環境災害)	25日 AM2 / コンベンションホールB	
U-05: [EJ] Innovative research at the intersection of geoscience and health science ([EJ] Geoscience and health science)	21日 AM2 / 101	
U-06: [JJ] 地球惑星科学の進むべき道-7: 防衛装備庁安全保障技術研究制度 ([JJ] 安全保障技術研究制度)	20日 PM1・PM2 / 103	
O: パブリック		
O-01: [JJ] 若手研究者のためのキャリアパスセミナー ([JJ] 若手キャリアパスセミナー)	21日 PM1 / 201A	
O-02: [JJ] 学校教育における地球惑星科学用語 ([JJ] 学校教育における用語)	21日 AM1・AM2 / 201A	
O-03: [JJ] 地球・惑星科学トップセミナー ([JJ] 地球惑星科学トップセミナー)	21日 AM1 / 国際会議室	
O-04: [JJ] キッチン地球科学 手を動かすことの利点 ([JJ] キッチン地球科学)	20日 PM1 / コンベンションホールA	20日 PM2, PM3
O-05: [JJ] 高校生によるポスター発表 ([JJ] 高校生発表セッション)	21日 AM2 / 国際会議室	21日 PM1
O-06: [JJ] 日本のジオパークーしくじりから見えてくるジオパークの理想像 ([JJ] 日本のジオパーク)	20日 PM1・PM2 / 国際会議室	20日 AM2, PM3
P: 宇宙惑星科学		
[PS: 惑星科学]		
P-PS01: [EE] Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow ([EE] Outer Solar System Exploration)	23日 AM1 - PM1 / 102	23日 PM2, PM3
P-PS02: [EE] Small Bodies: Exploration of the Asteroid Belt and the Solar System at Large ([EE] Small Bodies)	21日 AM1 - PM1 / 22日 AM1 - PM1 / 103	22日 PM2, PM3
P-PS03: [EJ] Regolith Science ([EJ] Regolith Science)	22日 PM2 - 23日 AM2 / 103	23日 PM2, PM3
P-PS04: [EJ] アルマによる惑星科学の新展開 ([EJ] アルマで惑星科学)	24日 AM1 / A04	24日 PM2, PM3
P-PS05: [EJ] Mars and Mars system: results from a broad spectrum of Mars studies and aspects for future missions ([EJ] Mars science and future missions)	20日 AM2 / コンベンションホールA 20日 PM2 / コンベンションホールB	20日 PM1, PM3
P-PS06: [EJ] あかつき金星周回1.5年とそと科学成果 ([EJ] あかつきの金星科学成果)	20日 AM1 - PM1 / コンベンションホールB	20日 PM2, PM3
P-PS07: [JJ] 惑星科学 ([JJ] 惑星科学)	24日 AM2 - 25日 AM2 / A04	25日 PM1, PM2
P-PS08: [JJ] 月の科学と探査 ([JJ] 月の科学と探査)	20日 AM1 - PM1 / 102 21日 AM1 / 101	20日 PM2, PM3
P-PS09: [JJ] 宇宙における物質の形成と進化 ([JJ] 宇宙物質)	22日 PM1・PM2 / 104	22日 AM2, PM3
P-PS10: [JJ] 太陽系における惑星物質の形成と進化 ([JJ] 太陽系惑星物質)	22日 PM2 / コンベンションホールA 23日 AM1 - PM2 / 105	22日 PM1, PM3
[EM: 太陽地球科学・宇宙電磁気学・宇宙環境]		
P-EM11: [EE] Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere ([EE] MTT Coupling)	23日 PM2 - 24日 PM1 / A01	24日 PM2, PM3
P-EM12: [EE] Space Weather, Space Climate, VarSITI ([EE] Space Weather)	22日 AM1 - 23日 PM1 / A01	23日 PM2, PM3
P-EM13: [EE] Exploring space plasma processes with Magnetospheric Multiscale (MMS) mission ([EE] Exploring space plasma process with MMS)	20日 AM1・AM2 / 105 20日 PM2 / 201A	20日 PM1, PM3
P-EM14: [EE] Dynamics in magnetosphere and ionosphere ([EE] Magnetosphere-Ionosphere)	20日 PM1 - 21日 PM1 / 105	20日 AM2, PM3
P-EM15: [EE] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成 ([EE] 太陽地球系結合過程)	25日 AM1 - PM1 / A03	25日 PM2
P-EM16: [EE] Physics of Inner Magnetosphere Coupling ([EE] Physics of Inner Magnetosphere Coupling)	23日 AM2 - 24日 AM1 / A02	24日 PM1, PM3
P-EM17: [EE] Recent Advances in Ionosphere Observation and Modeling for Monitoring and Forecast ([EE] Ionosphere Monitoring and Forecast)	22日 AM1・AM2 / A10	22日 PM2, PM3
P-EM18: [EE] Origin of Earth-affecting Coronal Mass Ejections ([EE] Origin of Earth-affecting CMEs)	25日 AM2・PM1 / A01	24日 PM2, PM3
P-EM20: [EJ] Heliosphere and Interplanetary Space ([EJ] Heliosphere and Interplanetary Space)	24日 AM2・PM1 / A02	24日 PM2, PM3
P-EM21: [JJ] 宇宙プラズマ理論・シミュレーション ([JJ] 宇宙プラズマ)	24日 PM2・25日 AM1 / A01	25日 PM1, PM2
P-EM22: [JJ] 大気圏・電離圏 ([JJ] 大気圏・電離圏)	25日 AM2・PM1 / A02	24日 PM1, PM3
[CG: 宇宙惑星科学複合領域・一般]		
P-CG23: [EE] 宇宙・惑星探査の将来計画と関連する機器開発の展望 ([EE] Space science missions and instruments)	24日 PM1・PM2 / A03	24日 AM2, PM3
P-CG24: [EJ] 惑星大気圏・電離圏 ([EJ] 惑星大気圏・電離圏)	21日 AM1・AM2 / 102	21日 PM1, PM3
A: 大気圏科学		
[AS: 大気科学・気象学・大気環境]		
A-AS01: [EE] 3D Cloud Modeling as a Tool for 3D Radiative Transfer, and Conversely ([EE] 3D Cloud and Radiative Transfer Modeling)	21日 AM1・AM2 / 304	21日 PM1, PM3
A-AS02: [EE] Cloud-Resolving Model Simulations for Cloud-Related Processes in Climate and Weather Studies ([EE] Cloud-Resolving Models)	22日 PM1・PM2 / 301B	22日 AM2, PM3
A-AS03: [EE] 最新の大気科学: 海大陸研究強化年-YMC ([EE] 海大陸研究強化年-YMC)	21日 AM1・AM2 / 301A	21日 PM1, PM3
A-AS04: [EE] Global Carbon Cycle Observation and Analysis ([EE] Global Carbon Observation and Analysis)	23日 AM1 - PM1 / 301B	23日 PM2, PM3
A-AS05: [EE] Contributions of local and long-range transport to air pollutants in mega-cities ([EE] Regional transport of air pollutants)	25日 AM1・AM2 / 301A	25日 PM1, PM2
A-AS06: [EE] 台風研究の新展開～過去・現在・未来 ([EE] 台風)	20日 AM1 / 301B 20日 PM1・PM2 / 101	20日 AM2, PM3
A-AS07: [EE] Aerosol impacts on air quality and climate ([EE] aerosol, climate, and air quality)	22日 AM1・AM2 / 101 22日 PM2 / 201B	22日 PM1, PM3
A-AS08: [EE] 雲降水過程の統合的理解に向けて ([EE] 雲降水過程の統合的理解)	23日 AM1・AM2 / A09 23日 PM2 / A07	23日 PM1, PM3
A-AS09: [EE] 成層圏-対流圏相互作用 統一領域としての新しい視点 ([EE] 成層圏-対流圏相互作用)	23日 PM1 / A10 24日 AM1 / A03 24日 PM1・PM2 / 303	24日 AM2, PM3
A-AS10: [EE] Interhemispheric and intrahemispheric coupling of the atmosphere ([EE] Inter/intra-hemispheric coupling)	23日 AM1 / A02	23日 PM2, PM3
A-AS11: [JJ] 大気化学 ([JJ] 大気化学)	23日 AM2 / A10 23日 PM2 - 24日 PM1 / 301B	24日 PM2, PM3
A-AS12: [EE] 高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学 ([EE] スパコンによる大気科学)	20日 AM1・AM2 / 101	20日 PM2, PM3
[OS: 海洋科学・海洋環境]		
A-OS13: [EE] 陸域海洋相互作用 ([EE] 陸域海洋相互作用)	23日 PM1・PM2 / 302	23日 AM2, PM3
A-OS14: [EE] Marine ecosystems and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling ([EE] Marine ecosystem & biogeochemical cycle)	21日 AM2・22日 PM1・PM2 / 303	22日 AM2, PM3
A-OS15: [EE] 海洋混合に関わる諸問題 ([EE] 海洋混合に関わる諸問題)	21日 AM1・AM2 / 302 21日 PM1 / A09	21日 PM3
A-OS16: [EE] 地球規模環境変化に関する分野横断的海洋研究 ([EE] 環境変化に関する海洋研究)	22日 AM2 / 303 22日 PM2 / 302	22日 PM1, PM3
A-OS17: [EE] Climate variations in the Atlantic Ocean and their representation in climate models ([EE] Climate variations in the Atlantic)	24日 AM1・AM2 / 303	24日 PM2, PM3
A-OS18: [EJ] Beyond physics-to-fish: Integrative impacts of climate change on living marine resources ([EJ] Integrative climate impacts on fisheries)	23日 AM1 / 303	23日 PM2, PM3
A-OS19: [EJ] 海洋気候モデリングの現状と展望 (CMIP6/OMIP の紹介) ([EJ] 海洋モデリングと OMIP)	21日 PM1 / 302	21日 AM2, PM3
A-OS20: [EJ] Research for a healthy ocean and a sustainable use of its resources and services ([EJ] Healthy ocean and sustainable use)	23日 AM2 / 303	23日 PM2, PM3
A-OS21: [JJ] 陸域と海洋をつなぐ水循環の物理過程 ([JJ] 陸域と海洋の水循環)	22日 AM1 / 304	22日 PM2, PM3

記号:区分	セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコアタイム
A-OS22:	JJ 海洋物理学 (JJ 海洋物理学)	22日 AM1・AM2/302	22日 PM2, PM3
A-OS23:	JJ 海洋化学 (JJ 海洋化学)	20日 AM1/303	20日 PM2, PM3
A-OS24:	JJ 海洋と大気の計測技術—センサーからプラットフォームまで— (JJ 海洋大気計測)	22日 PM1/302	22日 PM2, PM3
A-OS25:	JJ 地球温暖化・海洋酸性化に対する沿岸・近海域の海洋応答 (JJ 沿岸・近海域の温暖化応答)	22日 AM1/303	22日 PM2, PM3
A-OS26:	JJ 海洋生物資源保全のための海洋生物多様性変動研究 (JJ 海洋生物多様性変動)	21日 PM1/303	21日 AM2, PM3
A-OS27:	JJ インド洋の物理・生物地球化学・生態系と相互連関 (JJ インド洋の海洋科学)	21日 AM1/303	21日 PM1, PM3
A-OS28:	JJ 生物海洋学 (JJ 生物海洋学)	20日 PM2/303	20日 PM1, PM3
A-OS29:	EJ 海洋と大気の波動・渦・循環力学 (EJ 海洋力学全般)	23日 AM1・AM2/302	23日 PM2, PM3
A-OS30:	JJ 沿岸域の海洋循環・物質循環と生物の応答動態 (JJ 沿岸の物質循環と生物応答)	20日 AM2/303	20日 PM2, PM3
A-OS31:	JJ 近海・縁辺海・沿岸海洋で海洋学と古海洋学の連携を採る (JJ 海洋学と古海洋学)	20日 PM1/303	20日 PM2, PM3
[HW: 水文・陸水・地下水学・水環境]			
A-HW32:	[EE] Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts ([EE] Watershed Sciences)	20日 PM2/A08 21日 AM1—PM1/201B	20日 PM1, PM3
A-HW33:	[EE] Human-Natural system interactions and solutions for environmental management ([EE] Human & Nature, and environment solution)	20日 PM2/304	20日 PM1, PM3
A-HW34:	EJ 水循環・水環境 (EJ 水循環・水環境)	22日 AM1・AM2/301A 22日 PM1/201A	22日 PM2, PM3
A-HW35:	EJ 同位体水文学 2017 (EJ 同位体水文学 2017)	20日 AM1・AM2/304	20日 PM2, PM3
A-HW36:	JJ 都市域の水環境と地質 (JJ 都市域の水環境と地質)	20日 PM1/304	20日 PM2, PM3
[CC: 氷雪学・寒冷環境]			
A-CC37:	[EJ] アイスコアと古環境変動 ([EJ] アイスコア)	23日 AM1/A07 23日 PM1・PM2/A08	23日 AM2, PM3
A-CC38:	JJ 氷雪学 (JJ 氷雪学)	22日 PM1・PM2/A03	22日 AM2, PM3
[GE: 地質環境・土壌環境]			
A-GE39:	[EE] 地質媒体における物質移動と環境評価 ([EE] 物質移動と環境評価)	23日 AM2・PM1/301A	23日 PM2, PM3
A-GE40:	[EE] エネルギー・環境・水ネクサスと持続的発展 ([EE] 環境と持続的発展)	22日 PM1・PM2/301A	22日 AM2, PM3
[TT: 計測技術・研究手法]			
A-TT41:	[EJ] Operational Meteorological & Oceanographic Forecasting for Military, Government, Industry ([EJ] Operational METOC Forecasting)	—	24日 PM2, PM3
A-TT42:	JJ 飛行艇を用いた臨床地球惑星科学の創成 (JJ 飛行艇)	23日 PM2/301A	23日 PM1, PM3
[CG: 大気水圏科学複合領域・一般]			
A-CG43:	[EE] 中緯度大気海洋相互作用 ([EE] 中緯度大気海洋相互作用)	20日 PM1・PM2/302	20日 AM2, PM3
A-CG44:	[EE] Asian monsoon hydro-climate and water resources research for GEWEX ([EE] Asian GEWEX)	21日 PM1/301A	21日 AM2, PM3
A-CG45:	[EE] 熱帯インド洋・太平洋におけるマルチスケール大気海洋相互作用 ([EE] 熱帯の大気海洋相互作用)	20日 AM1・AM2/302	20日 PM2, PM3
A-CG46:	[EE] 衛星による地球環境観測 ([EE] 衛星による地球環境観測)	20日 AM1/国際会議室 20日 PM1—21日 PM1/104 22日 AM2/106	20日 AM2, PM3
A-CG47:	[EJ] 陸域生態系の物質循環 ([EJ] 陸域生態系の物質循環)	25日 AM1—PM1/303	25日 PM2
A-CG48:	[EJ] 北極域の科学 ([EJ] 北極域の科学)	24日 AM1—PM1/304	24日 PM2, PM3
A-CG49:	JJ 地球惑星科学における航空機観測利用の推進 (JJ 航空機観測)	21日 PM1/304	21日 AM2, PM3
A-CG50:	JJ 沿岸海洋生態系—2. サンゴ礁・藻場・マングローブ (JJ 浅海域・汽水域の物質循環)	24日 PM1・PM2/301A	24日 AM2, PM3
A-CG51:	JJ 沿岸海洋生態系—1. 水循環と陸海相互作用 (JJ 水循環と陸海相互作用)	24日 AM1・AM2/301A	24日 PM2, PM3
A-CG52:	JJ 植物プランクトン増殖に関わる海洋—大気間の生物地球化学 (JJ 海洋—大気間生物地球化学)	25日 AM1・AM2/304	25日 PM1, PM2
A-CG53:	JJ 気候変動への適応とその社会実装 (JJ 気候変動適応)	20日 AM1・AM2/104	20日 PM2, PM3
H: 地球人間科学			
[GG: 地理学]			
H-GG01:	[EE] Mapping phenology with long-term continuous remote sensing observations ([EE] Mapping phenology with remote sensing)	22日 PM2/106	22日 PM1, PM3
[GM: 地形学]			
H-GM03:	[EE] Geomorphology ([EE] Geomorphology)	22日 PM1/105	22日 PM2, PM3
H-GM04:	JJ 地形 (JJ 地形)	22日 AM1・AM2/105	22日 PM2, PM3
[QR: 第四紀学]			
H-QR05:	JJ ヒト—環境系の時系列ダイナミクス (JJ ヒト—環境系)	25日 AM1・AM2/106	25日 PM1, PM2
[SC: 社会地球科学・社会都市システム]			
H-SC06:	[EE] 景観評価の国際比較 ([EE] 景観評価の国際比較)	24日 AM1・AM2/202	24日 PM2, PM3
H-SC07:	EJ 人間環境と災害リスク (EJ 人間環境と災害リスク)	21日 PM1/A02	21日 AM2, PM3
H-SC08:	JJ 地球温暖化防止とCCUS (CO2 地中貯留・有効利用, 地球工学) (JJ 地球温暖化防止 CCUS)	20日 PM1・PM2/301B	20日 AM2, PM3
[DS: 防災地球科学]			
H-DS09:	[EE] Landslides and related phenomena ([EE] Landslides)	24日 AM1・AM2/105	24日 PM2, PM3
H-DS10:	[EE] Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems ([EE] Natural hazards impacts on technosphere)	23日 PM2/106	23日 PM1, PM3
H-DS11:	[EE] Enhancing Scientific and Societal Understanding of Geohazards in an Engaged Global Community ([EE] IUGS Geohazards)	25日 PM1/105	25日 AM2, PM2
H-DS12:	[EE] Tsunami disaster mitigation ([EE] Tsunami disaster mitigation)	25日 AM1・AM2/105	25日 PM1, PM2
H-DS13:	[EE] Remote Sensing of Natural Hazards and Mitigation of Impacts on Human/Ecosystem ([EE] Natural Hazards and Impacts)	25日 AM1/104	25日 PM1, PM2
H-DS14:	[EE] Integrated Research to promote Sendai Framework for Disaster Risk Reduction ([EE] Disaster Research for Sendai Framework)	24日 PM2/301B	24日 PM1, PM3
H-DS15:	EJ 海底地すべりとその関連現象 (EJ 海底地すべり)	—	23日 PM2, PM3
H-DS16:	JJ 津波とその予測 (JJ 津波とその予測)	24日 AM1—PM1/コンベンションホールA	24日 PM2, PM3
H-DS17:	JJ 湿潤変動帯の地質災害とその前兆 (JJ 地質災害)	24日 PM1・PM2/102	24日 AM2, PM3
[RE: 応用地質学・資源エネルギー利用]			
H-RE18:	JJ 再生可能エネルギーの効果的な利用に向けた地球科学データの活用 (JJ 再生可能エネルギー)	22日 AM1/202	22日 PM2, PM3
[TT: 計測技術・研究手法]			
H-TT19:	[EE] GEOSCIENTIFIC APPLICATIONS OF HIGH-DEFINITION TOPOGRAPHY AND GEOPHYSICAL MEASUREMENTS ([EE] HD Topography and Geophysics)	23日 PM1・PM2/103	23日 AM2, PM3
H-TT20:	[EE] Geographic Information Systems and Cartography ([EE] GIS and Cartography)	20日 PM1・PM2/106	20日 AM2, PM3
H-TT21:	[EE] Environmental Remote Sensing ([EE] ERS)	22日 PM1/106	22日 PM2, PM3
H-TT22:	[EE] Non destructive techniques applied to stone cultural heritages ([EE] Non destructive techniques)	22日 PM2/105	22日 PM1, PM3
H-TT23:	JJ 環境トレーサビリティ手法の開発と適用 (JJ 環境トレーサビリティ)	23日 AM1—PM1/106	23日 PM2, PM3
H-TT24:	JJ 環境リモートセンシング (JJ 環境リモートセンシング)	22日 AM1/106	22日 PM2, PM3
H-TT25:	JJ 地理情報システムと地図・空間表現 (JJ 地理情報システムと地図)	20日 AM1・AM2/106	20日 PM2, PM3
H-TT26:	JJ 浅層物理探査 (JJ 浅層物理探査)	24日 PM1・PM2/105	24日 AM2, PM3
[CG: 地球人間科学複合領域・一般]			
H-CG27:	[EE] 水—人間系の動態: 観測, 理解, モデル化とマネジメント ([EE] 水—人間系システム)	23日 PM1・PM2/A05	23日 AM2, PM3
H-CG28:	[EE] デルタ(三角洲): 複雑系への学際的アプローチ ([EE] デルタ(三角洲))	24日 AM1/106	24日 PM2, PM3
H-CG29:	[EE] Implementing Human Dimensions Research for the Earths Future / Global Land Project ([EE] Human Dimensions)	20日 PM1/201A	20日 PM2, PM3
H-CG30:	[EJ] 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動 (EJ 堆積・侵食と地球表層環境)	24日 PM1・PM2/106	24日 AM2, PM3
H-CG31:	[EJ] 福島第一原子力発電事故からの地域復興に貢献できること ([EJ] 放射性物質汚染地域の復興)	23日 PM2/304	23日 PM1, PM3
H-CG32:	JJ 原子力と地球惑星科学 (JJ 原子力と地球惑星科学)	23日 AM2・PM1/304	23日 PM2, PM3
H-CG33:	JJ 原子力発電所の基準地震動: 理学と工学の両面から考える (JJ 原発の基準地震動)	21日 AM2/A01	21日 PM1, PM3
H-CG34:	JJ 閉鎖生態系と生物のシステム—生物のシステムを介した物質循環 (JJ 閉鎖生態系と生物システム)	20日 PM2/202	20日 PM1, PM3

記号:区分	セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコアタイム
H-CG35:	[JJ] 社会とともに地球環境問題の解決に取り組む超学際研究の未来 ([JJ] 超学際研究)	22日 PM2/A07	22日 PM1, PM3
H-CG36:	[JJ] 海岸低湿地における地形・生物・人為プロセス ([JJ] 海岸低湿地)		20日 PM2, PM3
H-CG37:	[JJ] 熊本地震から学ぶ活断層と地震防災 ([JJ] 活断層と地震防災)	20日 PM2/A09 21日 AM1・AM2/A02	21日 PM1, PM3
S: 固体地球科学			
[GD: 測地学]			
S-GD01:	[EE] Geodetic Technologies, Networks and Strategies for Global Geodetic Observing System (GGOS) ([EE] Global Geodetic Observing System)	24日 PM1/202	24日 PM2, PM3
S-GD02:	[EJ] 重力・ジオイド ([EJ] 重力・ジオイド)	24日 AM1・AM2/A05	24日 PM2, PM3
S-GD03:	[EJ] 測地学一般 ([EJ] 測地学一般)	25日 PM1/102	25日 AM2, PM2
[SS: 地震学]			
S-SS04:	[EE] Subduction zone dynamics from regular earthquakes through slow earthquakes to creep ([EE] Subduction zone dynamics)	24日 AM1-PM1・25日 AM1-PM1/A10	24日 PM2, PM3
S-SS05:	[EE] 統計および物理モデルに基づく地震活動予測 ([EE] Earthquake statistics and beyond)	24日 PM1-PM2/A05	24日 AM2, PM3
S-SS06:	[EE] From Earthquake Source and Seismicity Parameters to Fault Properties and Strong-motion Assessment ([EE] Source and Seismicity Parameter Studies)	25日 AM2-PM1/A05	24日 PM2, PM3
S-SS07:	[EE] 地表面断層の調査・分析・災害評価 ([EE] 地表面断層評価)	24日 AM1・AM2/101 24日 PM2/コンベンションホールA	24日 PM1, PM3
S-SS08:	[EE] Earthquake Modeling and Simulation ([EE] Earthquake Modeling and Simulation)	22日 AM1/A07 22日 PM1-PM2/A02	22日 AM2, PM3
S-SS09:	[EE] Rethinking PSHA ([EE] Rethinking PSHA)	24日 PM1/A07	24日 PM2, PM3
S-SS10:	[EJ] 地殻変動 ([EJ] 地殻変動)	22日 AM1-PM1/コンベンションホールB	22日 PM2, PM3
S-SS11:	[EJ] 地震波伝播: 理論と応用 ([EJ] 地震波伝播)	25日 AM1-PM1/A08	24日 PM2, PM3
S-SS12:	[EJ] 活断層と古地震 ([EJ] 活断層と古地震)	22日 PM2-23日 PM1/A04	23日 PM2, PM3
S-SS13:	[JJ] 地震活動 ([JJ] 地震活動)	25日 AM1・AM2/A09	25日 PM1, PM2
S-SS14:	[JJ] 地震予知・予測 ([JJ] 地震予知・予測)	21日 PM1/101	21日 AM2, PM3
S-SS15:	[JJ] 強震動・地震災害 ([JJ] 強震動・地震災害)	23日 PM1-24日 AM2/国際会議室	24日 PM2, PM3
S-SS16:	[JJ] 地殻構造 ([JJ] 地殻構造)	24日 PM1-PM2/103	24日 AM2, PM3
S-SS17:	[JJ] 地震発生時の物理・断層のレオロジー ([JJ] 地震物理・断層レオロジー)	20日 AM2-PM1・21日 AM1・AM2/A09	21日 PM1, PM3
[EM: 固体地球電磁気学]			
S-EM18:	[EE] General Contributions in Geomagnetism, Paleomagnetism, and Rockmagnetism ([EE] Geo-, Paleo-, and Rock-magnetism)	20日 PM2/A07 21日 AM1・AM2/301B	21日 PM1, PM3
S-EM19:	[JJ] 電気伝導度・地殻活動電磁気学 ([JJ] 電気伝導度地殻活動電磁気)	22日 AM1・AM2/A08	22日 PM2, PM3
S-EM20:	[JJ] 地磁気・古地磁気・岩石磁気 ([JJ] 地磁気古地磁気岩石磁気)	20日 AM1-PM1/A03	20日 PM2, PM3
[IT: 地球内部科学・地球惑星テクトニクス]			
S-IT21:	[EE] マントルブルームは存在するか? ([EE] ブルームは存在するか?)	21日 PM1/A07	21日 AM2, PM3
S-IT22:	[EE] 核・マントルの相互作用と共進化 ([EE] Core-mantle coevolution in the Earth and planets)	20日 AM1-21日 AM2/A05 22日 PM2/コンベンションホールB	21日 PM1, PM3
S-IT23:	[EE] Structure and Dynamics of Earth and Planetary Mantles ([EE] Mantle structure and dynamics)	21日 PM1/102 22日 AM1-PM1/A05	22日 PM2, PM3
S-IT24:	[EE] 地殻応力研究の最前線: 観測・実験・モデリングの統合 ([EE] 地殻応力研究)	24日 PM1-PM2/A09	24日 AM2, PM3
S-IT25:	[EE] New constraints on the asthenosphere and its role in plate tectonics ([EE] The asthenosphere and plate tectonics)	20日 AM1・AM2/A02	20日 PM2, PM3
S-IT26:	[EE] Fluid-mediated processes and properties near convergent plate boundaries ([EE] Fluids in subduction zones)	20日 AM1・AM2/A08	20日 PM2, PM3
S-IT27:	[EE] Carbon in Planetary Interiors ([EE] Carbon in Planetary Interiors)	23日 PM1/A03	23日 PM2, PM3
S-IT28:	[EE] Seismic attenuation: Observations, Experiments, and Interpretations ([EE] Seismic attenuation)	20日 PM1/A08	20日 PM2, PM3
S-IT29:	[EE] New perspectives on East Asia geodynamics from the crust to the mantle ([EE] East Asia geodynamics)	23日 AM1・AM2/A03	23日 PM2, PM3
S-IT30:	[EE] Characterizing/contrasting seismic discontinuities in the oceanic and continental lithosphere ([EE] Discontinuities within lithosphere)	22日 PM2/A09	22日 PM1, PM3
S-IT31:	[EE] Revisit Bullen's layer C - Mantle transition zone and beyond ([EE] Mantle transition zone and beyond)	22日 AM2/202	22日 PM2, PM3
S-IT32:	[EJ] Recent earthquakes and deep structure of the Earth in and around Tibetan Plateau ([EJ] Tectonophysics of the Tibetan plateau)	24日 AM2/103	24日 PM2, PM3
[GL: 地質学]			
S-GL33:	[EE] Geodynamics of convergent margins: theoretical, laboratory and natural examples ([EE] Geodynamics of convergent margins)	23日 AM2/202 23日 PM2/104	23日 PM1, PM3
S-GL34:	[EJ] 泥火山の新しい研究展開に向けて ([EJ] 泥火山)	20日 PM2/A04	20日 PM1, PM3
S-GL35:	[EJ] 断層における年代と熱および流体流動の時空間的 4D 履歴の構築 ([EJ] 断層の年代と熱及び流体)	25日 PM1/302	25日 AM2, PM2
S-GL36:	[JJ] 地域地質と構造発達史 ([JJ] 地域地質と構造発達史)	22日 AM1-PM1/A09	22日 PM2, PM3
S-GL37:	[JJ] 地球年代学・同位体地球科学 ([JJ] 年代学・同位体)	25日 AM1・AM2/101	25日 PM1, PM2
S-GL38:	[JJ] 上総層群における下部中部更新統境界 GSSP ([JJ] L-M 更新統境界 GSSP)		22日 PM2, PM3
[RD: 資源・鉱床・資源探査]			
S-RD39:	[JJ] 資源地質学 ([JJ] 資源地質学)	25日 AM1・AM2/A07	25日 PM1, PM2
[MP: 岩石学・鉱物学]			
S-MP40:	[EE] Supercontinents and Crustal Evolution ([EE] Supercontinents and Crustal Evolution)	22日 AM1・AM2/102	22日 PM2, PM3
S-MP41:	[EE] Oceanic and Continental Subduction Processes ([EE] Subduction Processes)	22日 PM1-PM2/102	22日 AM2, PM3
S-MP42:	[EJ] 変形岩・変成岩とテクトニクス ([EJ] 変形岩・変成岩)	23日 AM1-PM1/104	23日 PM2, PM3
S-MP43:	[JJ] 脆性延性境界と超臨界地殻流体: 島弧地殻エネルギー ([JJ] 島弧地殻エネルギー)	23日 PM1-PM2/202	23日 AM2, PM3
S-MP44:	[JJ] 鉱物の物理化学 ([JJ] 鉱物の物理化学)	21日 AM1/A03 21日 PM1/301B	21日 AM2, PM3
[VC: 火山学]			
S-VC45:	[EE] Wet volcanology ([EE] Wet volcanology)	25日 AM2/102	25日 PM1, PM2
S-VC46:	[EE] 火山分岐現象の理解 ([EE] 火山分岐現象の理解)	24日 PM2/104	24日 PM1, PM3
S-VC47:	[JJ] 活動的火山 ([JJ] 活動的火山)	22日 AM1-PM1・23日 AM1-PM1/コンベンションホールA	22日 PM2, PM3
S-VC48:	[JJ] 火山の熱水系 ([JJ] 火山の熱水系)	25日 AM1/A05	25日 AM2, PM2
S-VC49:	[JJ] 火山防災の基礎と応用 ([JJ] 火山防災)	21日 AM2-PM1/A08	20日 PM2, PM3
S-VC50:	[JJ] 火山・火成活動と長期予測 ([JJ] 火山・火成活動)	20日 AM1-PM1/A04	20日 PM2, PM3
S-VC51:	[JJ] 1986 伊豆大島噴火を読み直す, 温故知新 ([JJ] 伊豆大島噴火 30 周年)	21日 AM1/A08	21日 PM1, PM3
[GC: 固体地球化学]			
S-GC52:	[EE] Volatile cycles in the Earth - from Surface to Deep Interior ([EE] Volatiles in the Earth)	22日 AM1・AM2/A03	22日 PM2, PM3
S-GC53:	[JJ] 固体地球化学・惑星化学 ([JJ] 固体地球化学)		25日 PM1, PM2
S-GC54:	[JJ] 地球化学の最前線 ([JJ] 地球化学の最前線)	24日 PM1-PM2/101	24日 AM2, PM3
[TT: 計測技術・研究手法]			
S-TT55:	[EE] RAEG2017 ([EE] RAEG2017)	20日 PM1-PM2/A02	20日 AM2, PM3
S-TT57:	[EJ] 合成開口レーダー ([EJ] 合成開口レーダー)	24日 AM2-PM1/201A	24日 PM2, PM3
S-TT58:	[EJ] 空中からの地球計測とモニタリング ([EJ] 空中地球計測)	24日 AM1/201A	24日 PM2, PM3
S-TT59:	[JJ] 地震観測・処理システム ([JJ] 地震観測・処理システム)	21日 PM1/A04	21日 AM2, PM3
S-TT60:	[JJ] ルミネッセンス・ESR 測定年代学・地球惑星科学への貢献 ([JJ] ルミネッセンス・ESR)	24日 PM2/202	24日 PM1, PM3
S-TT61:	[JJ] ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来 ([JJ] HPC と固体地球科学)	21日 AM2/A04	21日 PM1, PM3
[CG: 固体地球科学複合領域・一般]			
S-CG62:	[EE] 変動帯ダイナミクス ([EE] 変動帯ダイナミクス)	23日 AM1・AM2・24日 AM1-PM1/コンベンションホールB	23日 PM2, PM3
S-CG63:	[EE] Crust-Mantle Connections / Hard-Rock Drilling ([EE] Crust-Mantle Connections)	24日 AM2-PM1/104	24日 PM2, PM3
S-CG64:	[EE] Morphodynamics and Genetic Stratigraphy for Understanding Landforms and Strata ([EE] Morphodynamics and Genetic Stratigraphy)	22日 PM1-PM2/101	22日 AM2, PM3
S-CG65:	[EE] 混濁流: 発生源から堆積物・地形形成まで ([EE] 混濁流)	25日 AM1・AM2/302	25日 PM1, PM2

記号:区分	セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコアタイム
S-CG66:	[EE] Shallow and intermediate depth intraslab earthquakes: seismogenesis and rheology of the slab ([EE] Intraslab earthquakes)	23日 AM2・PM1/A07	23日 PM2, PM3
S-CG67:	[EE] 海溝海側で海洋プレートに生じる過程: 沈み込み帯へのインプット ([EE] 海溝海側で生じる過程)	23日 AM1・AM2/A05	23日 PM2, PM3
S-CG68:	[EE] Integrating Seismic and Geodetic Observations for Hazard Early Warning ([EE] Seismogeodesy for Hazard Early Warning)	—	20日 PM2, PM3
S-CG69:	[EE] Near Surface Investigation and modeling for Fault Assessment and Hazard Mitigations ([EE] Near surface fault investigation)	24日 PM2/A08	24日 PM1, PM3
S-CG70:	[EJ] 震源域近傍強震動の成因解明と強震動予測への展開 ([EJ] 震源域近傍強震動)	24日 PM1/国際会議室 24日 PM2/A07	24日 AM2, PM3
S-CG71:	[EJ] 海洋底地球科学 ([EJ] 海洋底地球科学)	24日 PM2-25日 PM1/201A	24日 PM1, PM3
S-CG72:	[EJ] 地震動・地殻変動・津波データの即時把握・即時解析・即時予測 ([EJ] 地震動・地殻変動即時解析)	20日 AM1-PM1/A07	20日 PM2, PM3
S-CG73:	[JJ] 岩石・鉱物・資源 ([JJ] 岩石・鉱物・資源)	22日 PM1・PM2/A08	22日 AM2, PM3
S-CG74:	[JJ] 地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理 ([JJ] レオロジーと破壊・摩擦)	22日 AM1-PM1/A04	22日 PM2, PM3
S-CG75:	[JJ] 地殻流体と地殻変動 ([JJ] 地殻流体と地殻変動)	21日 PM1/106	21日 PM3
B: 地球生命科学			
[AO: 宇宙生物学・生命起源]			
B-AO01:	[EE] Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life ([EE] Astrobiology)	24日 PM1・PM2/201B	24日 AM2, PM3
[BG: 地球生命科学・地圏生物圏相互作用]			
B-BG02:	[JJ] 地球惑星科学と微生物生態学の接点 ([JJ] 微生物生態)	—	24日 PM2, PM3
[PT: 古生物学・古生態学]			
B-PT03:	[EE] バイオミネラライゼーションと環境指標 ([EE] 生物鉱化作用と環境指標)	20日 PM1・PM2/201B	20日 AM2, PM3
B-PT04:	[EJ] 化学合成生態系の進化をめぐる ([EJ] 化学合成生態系の進化)	21日 AM1/106	21日 PM1, PM3
B-PT05:	[EJ] 地球史解説: 冥王代から現代まで ([EJ] 地球史解説)	23日 PM1-24日 AM2/201B	24日 PM2, PM3
B-PT06:	[JJ] 地球生命史 ([JJ] 地球生命史)	20日 AM1・AM2/201B	20日 PM2, PM3
[CG: 地球生命科学複合領域・一般]			
B-CG07:	[EE] 地球惑星科学 生命圏フロンティアセッション ([EE] 生命圏フロンティア)	22日 AM1・AM2/201B	22日 PM2, PM3
B-CG08:	[EJ] 深宇宙と深海から挑む生命探査科学 ([EJ] 深宇宙・深海生命探査)	23日 AM1/201B	23日 PM2, PM3
B-CG09:	[EJ] 顕生代生物多様性の変遷: 絶滅と多様化 ([EJ] 顕生代生物多様性)	23日 AM2/201B	23日 PM2, PM3
B-CG10:	[JJ] 生命-水-鉱物-大気相互作用 ([JJ] 生命-水-鉱物-大気)	22日 PM1/201B	22日 PM2, PM3
G: 教育・アウトリーチ			
G-01:	[EJ] Ocean Education in tomorrow classrooms ([EJ] Ocean Education in tomorrow classrooms)	—	21日 PM1, PM3
G-02:	[JJ] 災害を乗り越えるための「総合的防災教育」 ([JJ] 総合的防災教育)	20日 PM2/コンベンションホールA	20日 PM1, PM3
G-03:	[JJ] 地球惑星科学のアウトリーチ ([JJ] アウトリーチ)	20日 PM2・21日 AM2・PM1/A03	20日 PM1, PM3
G-04:	[JJ] 小・中・高等学校、大学の地球惑星科学教育 ([JJ] 小・中・高・大学の教育)	20日 AM1・AM2/301A	20日 PM2, PM3
M: 領域外・複数領域			
[IS: ジョイント]			
M-IS01:	[EE] Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia ([EE] Changes in Northern Eurasia)	20日 PM1・PM2/301A	20日 AM2, PM3
M-IS02:	[EE] 火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング ([EE] 火山噴煙・積乱雲)	24日 AM2/A09	24日 PM2, PM3
M-IS03:	[EJ] Future Earth - Implementing Integrated Research for Sustainable Future ([EJ] Future Earth)	20日 AM1・AM2/201A	20日 PM2, PM3
M-IS04:	[EE] Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes ([EE] Pre-earthquake processes)	24日 AM1・AM2/102	24日 PM2, PM3
M-IS05:	[EE] Thunderstorms and lightning as natural hazards in a changing climate ([EE] Thunderstorms and lightning)	22日 AM1/A11 22日 PM1・PM2/304	22日 AM2, PM3
M-IS06:	[EJ] アジア・モンスーンの進化と変動、新生代寒冷化との関係 ([EJ] アジア・モンスーンの進化)	23日 PM1・PM2/A09	23日 AM2, PM3
M-IS07:	[EE] Conservation of natural geosites and cultural heritages: weathering process and damage assessment ([EE] Conservation of geosites and heritages)	21日 AM2/202	21日 PM1, PM3
M-IS08:	[EE] Living on the edge! Geodynamics, Tectonics and Paleogeography of East Asia during the Phanerozoic ([EE] Phanerozoic history of E Asia)	25日 AM2/103	25日 PM1, PM2
M-IS09:	[EJ] 津波堆積物 ([EJ] 津波堆積物)	23日 AM1-PM1/201A	23日 PM2, PM3
M-IS10:	[EJ] 南大洋・南極氷床が駆動する全球気候変動 ([EJ] 南大洋・南極氷床)	24日 AM1・AM2/A08 24日 PM2/A02	24日 PM1, PM3
M-IS11:	[EJ] 結晶成長、溶解における界面・ナノ現象 ([EJ] 結晶成長・溶解)	24日 AM2/A03	24日 PM2, PM3
M-IS12:	[JJ] 地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象 ([JJ] 地震・火山電磁気現象)	25日 PM1/103	25日 AM2, PM2
M-IS13:	[JJ] 山岳地域の自然環境変動 ([JJ] 山岳地域の自然環境変動)	24日 PM2/コンベンションホールB 25日 AM1・AM2/301B	25日 PM1, PM2
M-IS14:	[JJ] ジオパーク ([JJ] ジオパーク)	21日 AM1・PM1/A01	21日 AM2, PM3
M-IS15:	[JJ] 地球流体力学: 地球惑星現象への分野横断的アプローチ ([JJ] 地球流体力学)	24日 AM2/106 24日 PM1/A08	24日 PM2, PM3
M-IS16:	[JJ] ガスハイドレートと地球環境・資源科学 ([JJ] ガスハイドレート)	22日 AM1・AM2/A02	22日 PM2, PM3
M-IS17:	[JJ] 海底マンガングル床の科学: 基礎から応用まで ([JJ] 海底マンガングル床の科学)	21日 AM2/106	21日 PM1, PM3
M-IS18:	[JJ] 大気電気学 ([JJ] 大気電気学)	22日 AM2/304	22日 PM2, PM3
M-IS19:	[JJ] 生物地球化学 ([JJ] 生物地球化学)	24日 AM1-PM1/302	24日 PM2, PM3
M-IS20:	[JJ] 遠洋域の進化 ([JJ] 遠洋域の進化)	25日 AM2/201B	25日 PM1, PM2
M-IS21:	[JJ] 南北両極のサイエンスと大型研究 ([JJ] 南北両極の大型研究)	24日 PM2/304	24日 PM1, PM3
M-IS22:	[JJ] 地球掘削科学 ([JJ] 地球掘削科学)	24日 PM2-25日 AM2/国際会議室	24日 PM1, PM3
M-IS23:	[JJ] 古気候・古海洋変動 ([JJ] 古気候・古海洋変動)	22日 AM2/A11 22日 PM1-23日 AM2/国際会議室	23日 PM2, PM3
M-IS24:	[JJ] 海底～海面を貫通する海域観測データの統合解析 ([JJ] 海底～海面の貫通観測)	22日 PM2/202	22日 PM1, PM3
M-IS26:	[JJ] 水惑星学 ([JJ] 水惑星学)	20日 AM1/103	20日 PM2, PM3
[GI: 地球科学一般・情報地球科学]			
M-GI27:	[EE] Challenges of Open Science: Research Data Sharing, Infrastructure, and Scientific Communications ([EE] Challenges of Open Science)	23日 AM1・AM2/A08	23日 PM2, PM3
M-GI28:	[EE] Data assimilation: A fundamental approach in geosciences ([EE] Data assimilation)	22日 AM1・AM2/301B	22日 PM2, PM3
M-GI29:	[EJ] データ駆動地球惑星科学 ([EJ] データ駆動地球惑星科学)	20日 AM1・AM2/A01 20日 PM2/102	20日 PM1, PM3
M-GI30:	[JJ] 情報地球惑星科学と大量データ処理 ([JJ] 情報地球惑星科学)	22日 AM1・AM2/201A	22日 PM2, PM3
M-GI31:	[JJ] ソーシャルメディアと地球惑星科学 ([JJ] ソーシャルメディア)	21日 PM1/202	21日 AM2, PM3
M-GI32:	[JJ] 計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開 ([JJ] 計算惑星)	22日 AM1・AM2/104	22日 PM2, PM3
[AG: 応用地球科学]			
M-AG33:	[EE] Satellite Land Surface Reflectance at Medium/High Resolution: Algorithms, Validation & Applications ([EE] Surface Reflectance and agriculture)	22日 PM2/201A	22日 PM1, PM3
M-AG34:	[EJ] 福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態 ([EJ] 原発事故放射能の環境動態)	25日 AM1-PM1/コンベンションホールA	24日 PM2, PM3
M-AG35:	[EJ] 海洋地球インフォマティクス ([EJ] 海洋地球インフォ)	20日 PM1・PM2/A01	20日 AM2, PM3
[SD: 宇宙開発・地球観測]			
M-SD36:	[JJ] 宇宙食と宇宙農業 ([JJ] 宇宙食と宇宙農業)	20日 AM2/202	20日 PM2, PM3
[TT: 計測技術・研究手法]			
M-TT37:	[EE] Cryoseismology - a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth - ([EE] Cryoseismology)	23日 AM1/202	23日 PM2, PM3
M-TT38:	[EJ] 統合地球観測システムとしての GPS/GNSS の新展開 ([EJ] GPS/GNSS の新展開)	23日 PM1・PM2/303	23日 PM3
M-TT39:	[JJ] インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像 ([JJ] 低周波が繋ぐ多圏融合物理)	22日 PM2/A05	22日 PM1, PM3
[ZZ: その他]			
M-ZZ40:	[EE] Sustainable global groundwater management for human security ([EE] groundwater for human security)	22日 AM2・PM1/A07	22日 PM2, PM3
M-ZZ41:	[EJ] リスクコミュニケーションの未来-科学情報を社会にどう伝えるか ([EJ] リスクコミュニケーション)	20日 AM2/301B	20日 PM2, PM3
M-ZZ42:	[JJ] 地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論 ([JJ] 地球惑星科学の科学論)	21日 AM1・AM2/A07	21日 PM1, PM3

JpGU2017年大会準備タスクフォース 活動報告 末廣 潔 (TFヘッド)
Report of Task Force activities: K. Suyehiro (JpGU Task Force for 2017 Meeting)

- 前回第7回理事会 (03/23/2017) 以降の活動 (activities since 03/23/'17)
4/11 AGU と JpGU 事務局との電話会議。事務的項目、学生イベント、展示、ホットトピック、AGU 要人スケジュール、プレス対応、セッション、タウンホール、ジョイントイベント、ホテルなどにわたって詳細に実務的詰めを進めた。
 - AGU 側基調講演: Lucy Jones 氏 (元 USGS 現 CalTech) 。
 - Students Travel Support: 確定 (送金終了) 。
 - International Mixer Luncheon (5/22 ; 小谷さん) 。
 - Students Presentation Awards(OSPA): AGU メンバーレフェリー参加。
 - AGU 企画 Author Workshop スケジュール済み (キャリア WS と別) 。
 - Career Corner: AGU とジョイント。
 - 「おしゃべり広場」: 国内学生主体に AGU 担当者と連携。応募多数。
 - 「Hot topics discussion」メインコンビーナーに応募の呼びかけ。
 - 海外プレス対応、ハイライトを AGU 側に伝達する。
 - ソーシャルネットワーク: #JpGUAGU17 を AGU 側でセットアップ。JpGU も対応。
 - AGU タウンホール: 2017 年秋季大会の紹介、米国新政権のインパクトなど。
-
- 国際化の方針の具現 Implementation of the internationalization policy
 - 国際参加者向け JpGU 紹介パンフレット配布 1000 部印刷予定。
 - 2018 年以降の引き継ぎ。AGU との今後の協力様式の検討必要。

構成メンバー (7 名):

末廣潔 (TF ヘッド・事務局・GSC)、興野純 (イベント)、近藤康久 (情報システム)、高橋幸弘 (広報普及)、西山忠男 (2016 プログラム委員長)、三宅弘恵 (GSC)、Liu HuiXin (2017 プログラム委員長)、小谷亜由美 (大会運営委)

Y Kondo, A Kotani, A Kyono, H Liu, H Miyake, T Nishiyama, K Suyehiro, Y Takahashi

アドバイザーメンバー (6 名)

北和之 (財務委員長・理事)、木村学 (GSC 委員長・理事)、島津浩哲 (大会システム)、浜野洋三 (大会運営委員長・理事・事務局長)、古村孝志 (総務委員長・理事)、村山泰啓 (情報システム委員長)

T Furumura, Y Hamano, G Kimura, K Kita, Y Murayama, H Shimazu

第7 2回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2017年4月15日（土） 14:00－16:40 私立海城高校

2 参加者

矢島ミ、根本、畠山、瀧上、宮嶋、丹羽、上村、富樫、田口

3 前回議事録案の承認

提案通りに承認された。

4 中教審関連・理数系学会・他研究団体、教育検討委員会の情勢報告

- ・3/31、小中学校次期学習指導要領が告示されたことが報告された。

- ・5/13、CSERS（教科理科関連学会協議会）のシンポジウム「理科で身に付ける力とは」が開催されるとの報告があった。

- ・新「地学基礎」案について、理事会のメール審議にて2/23に承認されたことが報告された。また、提言を文科省に提出するべく、畠山委員長が日程を調整することを確認した。

- ・国際地学オリンピック（フランス大会）への代表4名が3月中旬に決定したことが報告された。

- ・JpGUの開設する4つの教員免許状更新講習が承認され、受講申込が開始されたことが報告された。

5 協議

（1）2017JpGU パブリックセッションの準備について

当日配布の冊子用原稿の編集、印刷製本について、期日・部数等を確認した、また、当日の運営について、コメント用紙を作成し、冊子に綴じ込むことを確認した。

（2）教員免許更新講習の実施体制について

現在、3人（根本、瀧上、畠山委員）で担当している講習受付等の業務に関して、業務支援のため1名の増員を求める提案がなされ、承認した。なお、人選については、大学教員が望ましいことから、教育検討委員会で呼びかけることとした。

（3）理数系学会教育問題連絡会の委員選出について

業務の引継の観点から、現在の委員にさらに1名の増員を行う提案がなされ、丹羽委員が新たに加わることとなった。

（4）学術会議、地理教育・地学教育における用語問題について

小委員会の作業進捗状況の報告がなされた。また連合大会中の同小委員会の開催について、5/21（日）の教育検討委員会（19:00-20:00を予定）の前に実施するよう提案することを確認した。

(5) 地学フォーラム交流会の運営について

現在の企画立案状況の報告なされ、下記の観点で内容を調整してゆくことを確認した。

- ・ウェザーニュースの会社見学を終えてから、連合大会のPM2のセッションに参加できるような時程にすること。

- ・何人かの話題提供者を募って、議論を行うこと。

(6) 地学教育研究集会(11月・東大地震研)の講演者人選について

講演依頼をする候補者を確認し、研究集会の開催日を確定した後、速やかに講演の打診を行うことを承認した。

(7) 教育検討委員会の今年度予算案について

今年度予算額が示され、予算執行の概要について確認を行った。

6 次回小委員会

7/1(土) 14:00 から海城高校で行うことを決定した。

第71回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2017年1月21日(土) 13:30-17:30 私立海城高校

2 参加者

矢島ミ、渡邊、根本、畠山、瀧上、宮嶋、丹羽、川村、上村、藤原、小林、富樫

3 前回議事録案の承認

提案通りに承認された。

4 委員の異動について(新委員の承認・現委員の退任)

大気海洋区分選出の間々田氏の後任として、海洋学会から推薦された東京大学海洋アライアンス・丹羽淑博氏の委員就任を承認した。

現委員の地震火山区分選出の萬年氏については火山学会から後任を推薦してもらうことが、世話人会推薦の能見氏は退任することが、矢島竜太郎氏については引き続きオブザーバーとして継続することが報告された。

5 中教審関連・理数系学会・他研究団体、教育検討委員会の情勢報告

- ・8/26 教育課程部会が次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめを報告し、9/9-10/7 まで意見聴取を行ったことが報告された。

- ・11/29 に結果が公表された TIMSS2015 および 12/6 に公表された PISA2015 について、各々の概要資料を確認した。

・12/21 に中教審から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が答申されたことが報告され、答申の概要について資料を確認した。

・12 月に JpGU が教員免許状更新講習実施機関として認定を受け、来年度3件の更新講習を企画していることが報告された。

・理数系学会教育問題連絡会が次期学習指導要領における「理数探究（仮称）」に関するシンポジウムを企画していることが報告された。

・国際地学オリンピック国内一次予選の結果が1/20 に公表され、64 人が二次選抜に進んだことが報告された。

・次期高校学習指導要領における新「地学基礎」の提言案について、9月、1月の理事会に提出したが、承認が得られず、再度、文案を練り直すよう指示があったことが報告された。

6 協議

（1）新「地学基礎」の提言案の検討について

理事会からの要請に基づき、文言を簡潔・明確にするなど修正を行った。提言案については、富樫委員が文章を整え、近日中にMLで内容を確認することを確認した。

（2）2017JpGU パブリックセッションの準備について

コンビーナ団より、現在までの進捗状況の報告がされた。大会当日に配布する冊子については、印刷・製本を5月の連休明けに海城高校の地学部の生徒にお願いすることを確認した。

（3）今後の小委員会の活動方針について

今後の小委員会の活動について以下の各点について意見交換を行い、時期を見て可能なものから具体的に検討を始めることを確認した。

- ・学術会議の地理・地学系の学校教育における用語問題への協力を確認
- ・教育課程小委員会の考える地学基礎の教科書の作成を模索
- ・全国の地学教育を支援、リードする視点での取組の検討

6 次回小委員会

4/15（土）に海城高校で行うことを決定した。なお、主たる検討課題の一つとして、連合大会パブリックセッションの準備を確認